

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道

1986
3



第13代大管長 エズラ・タフト・ベンソン

聖徒の道

1986年 3月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン

十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード

顧問：カーロス・E・エイシー、レックス・D・ピネガー、ジョージ・P・リー、ジェームズ・M・バラモア

編集長：カーロス・E・エイシー

教会機関誌ディレクター：ウェイン・B・リン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：ロイス・リチャードソン

レイアウト/デザイン：メアリー・A・ホドソン、C・キンボール・ボット

聖徒の道 1986年3月号第30巻第3号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約1,100円(送料共)

普通号150円、大会号(1,7月号)350円

International Magazines PBMA0438JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright ©1986 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒150東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター/☎03-464-1617●「聖徒の道」についての配送のお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター/☎0427-96-2820



シー・ピーターソン(p. 20)

●—も く じ

エズラ・タフト・ベンソン長老——第13代大管長に聖任さる	ドン・L・サール	1
豊かで満ち足りた人生	スベンサー・W・キンボール	5
「主に向かって勧めをしようとはしないで」	マリオン・G・ロムニー	10
復活祭の奇跡を見ました	ジェニー・ウルジー・バースガード	14
共に歩くふたり	ウェイン・B・リン	16
シー・ピーターソン：模範的で、しかもユニークな末日聖徒	ジーニー・タカハシ	20
質疑応答(「目には目を……」の意味)	エアメル・J・モートン	表3
各地のたより		
子供のページ(別冊付録)		
お天気カレンダー		表1
小さなお友だちへ(バーバラ・W・ウインダー姉妹)		2
ぼくの気しょう台		6
おいのりのときには何て言うの?	バット・グレアム	7

聖徒の道

1986年 3月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン

十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード

顧問：カーロス・E・エイシー、レックス・D・ピネガー、ジョージ・P・リー、ジェームズ・M・パラモア

編集長：カーロス・E・エイシー

教会機関誌ディレクター：ウェイン・B・リン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：ロイス・リチャードソン

レイアウト/デザイン：メアリー・A・ホドソン、C・キンボール・ボット

聖徒の道 1986年 3月号第30巻第3号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定 価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

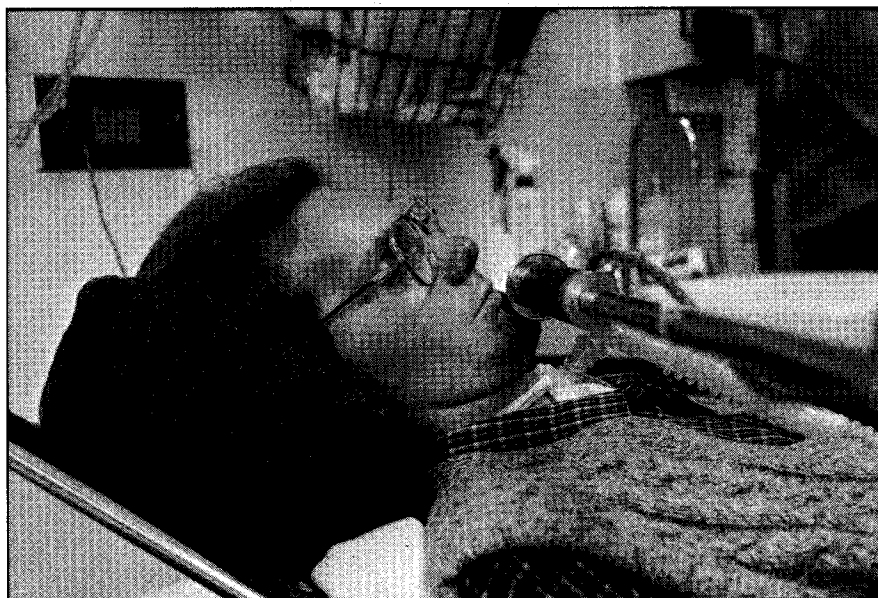
普通号150円, 大会号(1, 7月号)350円

International Magazines PBMA0438JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright ©1986 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒150東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター/☎03-464-1617●「聖徒の道」についての配送のお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター/☎0427-96-2820



シー・ピーターソン(p. 20)

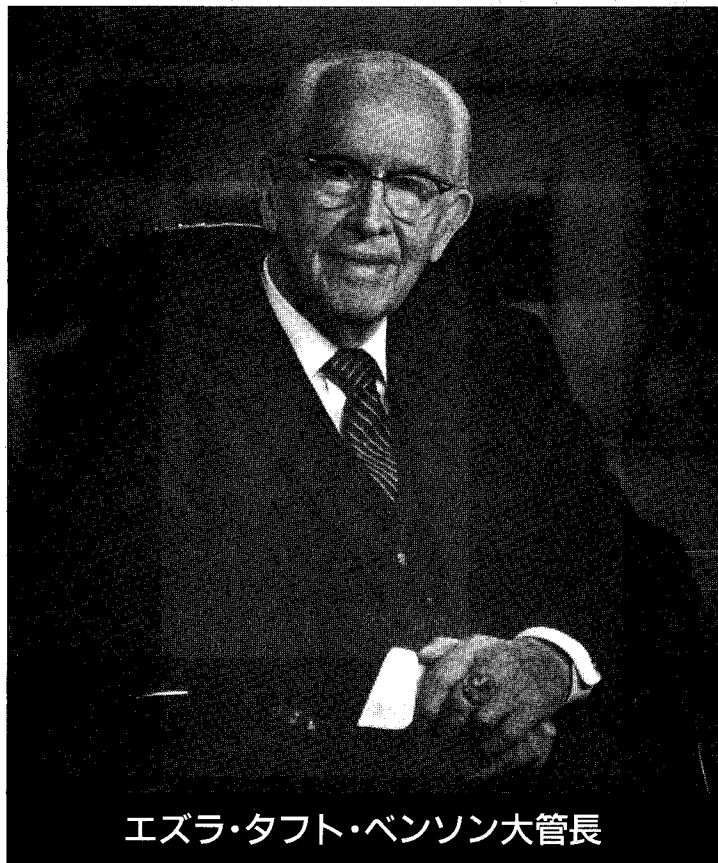
●——も く じ

エズラ・タフト・ベンソン長老——第13代大管長に聖任さる	ドン・L・サール	1
豊かで満ち足りた人生	スペンサー・W・キンボール	5
「主に向って勧めをしようとはしないで」	マリオン・G・ロムニー	10
復活祭の奇跡を見ました	ジェニーン・ウルジー・バースガード	14
共に歩くふたり	ウェイン・B・リン	16
シー・ピーターソン：模範的で、しかもユニークな末日聖徒	ジーニー・タカハシ	20
質疑応答(「目には目を……」の意味)	エアメル・J・モートン	表3
各地のたより		
子供のページ(別冊付録)		
お天気カレンダー		表1
小さなお友だちへ(バーバラ・W・ウインダー姉妹)		2
ばくの気しょう台		6
おいのりのときには何て言うの?	パット・グレアム	7

エズラ・タフト・ベンソン長老

第13代大管長に聖任さる

「エンサイン」副主筆
ドン・L・サール



エズラ・タフト・ベンソン大管長

11月5日、主は大勢の人が眠りについている間にこの地上の主の予言者、聖見者、啓示を受ける者を解任され、同時にご自分の選ばれた僕をこの地位にお就けになった。スペンサー・W・キンボール大管長の死去に伴い、十二使徒定員会のエズラ・タフト・ベンソン会長の肩に予言者の衣が掛けられたのである。

11月6日の夜明けとともに、キンボール大管長逝去のニュースはソルトレーク・シティーから世界に報道され始めた。同日の夕刻には南米からインド洋にまで行きわたり、世界中の忠実な末日聖徒が

その死を悼んだ。

キンボール大管長は、11月5日（山岳標準時）午後10時8分、ソルトレーク・シティーの繁華街にあるアパートで、老衰により他界した。大管長は、3月28日で90歳を迎えたところであった。

カミラ夫人は、令嬢オリーブ・ベス・マック、義妹ウィニフレッド・アイリング、長年秘書を務めたD・アーサー・ハイコック、そして看護婦と共に大管長に付き添っていたが、大管長の死に接するや直ちにベンソン会長、ゴードン・B・ヒンクレイ第二副管長に連絡した。

それから数日の間、世界中の教会役員、会員、政府や業界の指導者、宗教関係者らから、次々と哀悼のメッセージが寄せられた。その中には、ロナルド・レーガン合衆国大統領からキンボール姉妹にあてた手紙もあった。かつてレーガン大統領は公式の声明の中で、キンボール大管長の「神と祖国に対する愛は、私たちすべての者を感動させる。……それは私たちに吹き込まれる靈感である」と語った。

11月8日、キンボール大管長の遺体は、定められたとおりの方式に則って教会執務ビルのロビーに安置され、一般の甲問を受けた。この日、午後10時まで、4万人以上の人々が柩の前に列を作り、キンボール大管長と最後の別れを惜しんだ。

教会執務ビルのロビー受付横の棚には小さな額が置かれており、かつて大管長を務めた偉人の不屈の精神と前向きの姿勢をうかがわせる。キンボール大管長の流れるようなサインのエッチングの横に置かれたその額には「Don't quit（歩みを止めはならない）」と書かれている。

「先覚者として働かれ、皆に愛されたスペンサー・W・キンボール大管長」（十二使徒評議員会会員のニール・A・マックスウェル長老は、11月9日、葬儀の開会の祈りの中でキンボール大管長をこう呼んだ）は、老齢と病に苦しみつつも、決して歩みを止めない人であった。

ベンソン会長は葬儀の席上、キンボール大管長の在任期間中に教会が多く面で進展したこと、すなわち、七十人第一定員会の再度の設置、すべてのふさわしい男性に神権が与えられるとの啓示、教義と聖約のふたつの啓示の追加（日本語の聖典では、「ジョセフ・スミス——日の光栄の王国に関する示現」と「ジョセフ・

F・スミス——死者の贖いに関する示現」のふたつが「高価なる真珠」に付加された啓示として収められている), 200万人もの人々の改宗, スターキ部数の1.5倍増, 世界中に神殿が建てられ運営されるようになったこと, そうしたことに伴って世界的に伝道活動が進展を見たことなどに触れて, キンボール大管長をたたえた。

ベンソン会長は言った。「私がスペンサー・ウーリー・キンボールを愛していると言うときには, 本当に心からそう言っているのです。」このふたりは, 1943年10月7日に十二使徒定員会に召されて以来, 同評議会と共に働いてきたのである。

ベンソン会長は次のように語った。キンボール大管長の生涯と言えは, 「謙遜に主を信頼し」「リーハイの息子や娘を深く愛し」「罪に染まった人々に対する勧告と関心, 思いやり, 愛によって, 多くの人々に静かな赦しの奇跡をもたらす」生涯であった, と。

キンボール大管長の葬儀においては, ベンソン会長のほかにも, ヒンクレー長老, 十二使徒評議員会のラッセル・M・ネルソン長老, バーバラ・B・スミス前中央扶助協会会長, ヘイコック兄弟, 令息アンドリュー・E・キンボールが話した。

閉会の祈りはハワード・W・ハンター長老, 墓の奉献は令息エドワードが行ない, 令息スペンサー・L・キンボールが家族の祈りを捧げた。

土曜日の葬儀の日, 風向きが強くめまぐるしく変わる天候の中, 葬送の人々にはわか雪に見舞われながらも, ソルトレーク・シティーの共同墓地で行なわれた埋葬式に参列した。キンボール大管長の墓は, ハロルド・B・リー大管長, デビッド・O・マッケイ大管長の墓からあまり遠くない所に設けられた。

翌日曜日, 十二使徒定員会はソルトレーク神殿に集い, 大管長会の再組織について話し合った。この神聖な業は主の宮居の中で行なわれる。ここにおいて, エズラ・タフト・ベンソン会長は教会の大管長として聖任され任命された。また, キンボール大管長の第二副管長として働いたゴードン・B・ヒンクレー長老が第一副管長に, 十二使徒定員会のトーマス・

S・モンソン長老が第二副管長に選ばれた。十二使徒定員会会長には, キンボール大管長の第一副管長として働いたマリオン・G・ロムニー長老が召されたが, 年齢により病弱なため, 同定員会のハワード・W・ハンター長老が十二使徒定員会会長代理として召された。

11月11日, 月曜日に新任の大管長会が発表され, 教会執務ビルでの記者会見の様子がテレビ中継された。第13代大管長は, ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長を右, トーマス・S・モンソン第二副管長を左にして中央の座に着き, 壇に立って準備した声明を読みあげた。キンボール大管長のことに触れるとその声は涙にむせんだ。また, ふたりの副管長について, そして天父のみ業に対するみずからの愛について述べたときも, 声をつまらせていた。

「私どもはたった今, 神殿で特別な集会を開き, 大管長会の再組織に伴う諸々の事務を正規の手続きに従って整理してまいりました。私どもは昨日も神殿に集まりました。そしてそこで, 私エズラ・タフト・ベンソンは, 十二使徒評議員会の全員一致の決定によって末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に聖任され, 任命されました。次いで私は私の副管長としてゴードン・B・ヒンクレー長老とト

ーマス・S・モンソン長老を指名し, ヒンクレー長老を大管長会の第一副管長に, モンソン長老を第二副管長に任命いたしました。また, マリオン・G・ロムニー長老を十二使徒評議員会の会長として指名いたしました。が, ロムニー長老はご病気のため, 十二使徒評議会会長代理としてハワード・W・ハンター長老を召し, 任命いたしました。

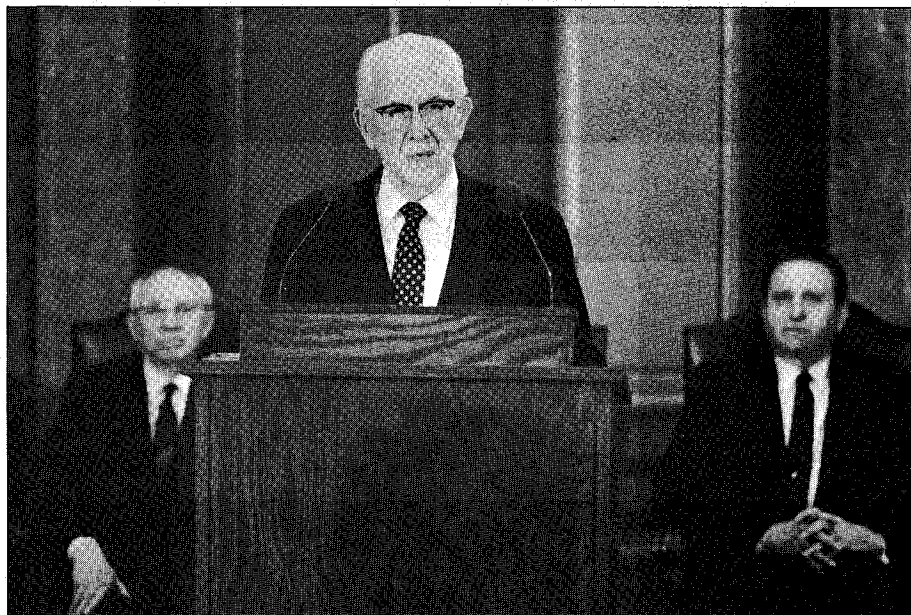
ここで, この召しに関する感想をしたためた声明文を読みたいと思います。

私は, このような日が来ようとは思っていませんでした。私は妻のフローラと共に, キンボール大管長がこの世に生き長らえられるように, 彼のためにもう一度奇跡が行なわれるように, と祈っていました。しかし今となっては, 主が語られたように最善を尽くし, この地上において主の導きのもとにみ業を推し進めるだけです。

これから先, 私どもはキンボール大管長の死をどんなにか残念に思うことでしょう。

十二使徒評議員会で, 私は長年彼の隣に座を占めていました。私は彼を深く愛しています。私は, 彼の深い愛と教えを決して忘れません。

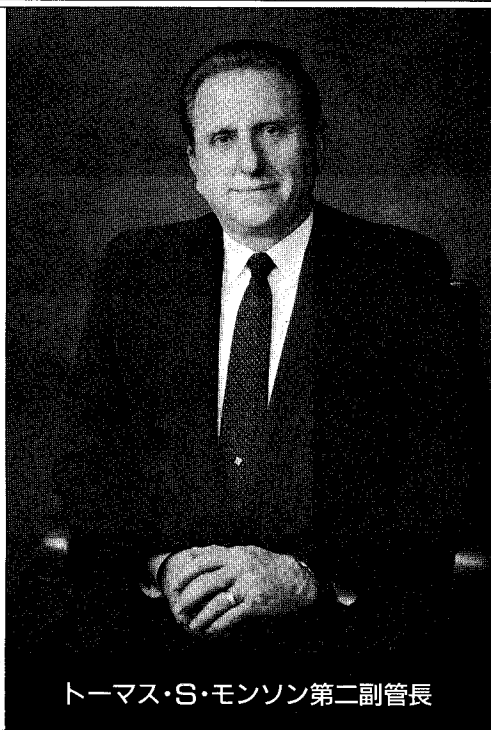
私の心は, 教会員の皆さん, そして世界中の天父の子供たちに対する愛と哀れ



1985年11月11日に行なわれた記者会見で声明を読みあげるエズラ・タフト・ベンソン大管長。ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長(左)とトーマス・S・モンソン第二副管長(右)を伴って。



ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長



トーマス・S・モンソン第二副管長

みであふれんばかりです。私は御父の子供たちを、どんな皮膚の色の人であれ、あるいはどんな信条、または政治的信念の人であれ、すべて愛しています。私の望みは、ただ主のみこころのままに仕えることだけです。

何人かの人々が、何かしら期待を持ちつつ、教会の将来進むべき方向について質問してられました。私はその答えとして、今まで主がキンボール大管長を通してはっきりと指摘してこられた教会の3つの使命をあげたいと思います。すなわち、福音を宣べ伝えること、聖徒たちを全き者とする、死者を贖うことの3つです。私どもはこの使命を果たすためにあらゆる努力を払い続けるつもりです。

私どもはこれまでと同じように、伝道の責任を果たすよう全会員を励ましてまいります。また、伝道が許されている国のみに伝道の業を行ないます。また、世界中の会員に自国の法律を尊ぶように勧告いたします。

また、堅固なクリスチ안의家庭と家族生活の大切さについて強調いたします。私どもは、親が子供に聖書、モルモン経、そのほかの聖典に啓示された福音の原則を教えることが、年を追うごとに必要になってきていると感じています。

また、これまでと同様、神殿の業を強調いたします。主は私たちに、生者と死

者のために必要欠くべからざる儀式を行なう責任を託されました。

また私どもは全世界に対し、末日聖徒イエス・キリスト教会は私たちの主であり救い主であるイエス・キリストに導かれていると確言いたします。私どもはキリストを信じています。また、その教えを神より啓示された真理として認め、受け入れています。イエスが文字通り神の御子であることを知っています。また、復活された主として救い主としてイエスを愛しています。

私どもは『わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていない』（使徒4：12）と信じています。

ですから、モルモン経にあるように、すべての人々にこう呼びかけるのです。『キリストの御許に^{みもと}来てキリストによって全くなれ。すべて神のみこころに背くことを捨てよ。……勢いと心と力とをつくして神を愛』せよ、と。（モロナイ10：32）

教会員の皆さん、どうか忠実に神の戒めを守ってください。

私は、私の両脇に座っておられるふたりのすばらしい副管長を愛しています。またおふたりに感謝しています。

私どもはすべての教会員に、また、あらゆる国々に住む天父の子供たちに、私

どもの愛をお伝えしたいと思います。

私は心からこの業を愛しています。

私は、ふたりの副管長と、全能者の神聖な業に対する皆さんの信仰と祈りに、心から感謝いたします。

本当にありがとうございます。皆さんの上に神の祝福がありますように。」

記者会見は15分足らずの短い時間で終わり、新任の大管長会はその後直ちにみずからの任務に就いた。彼らにとって、その任務は長年慣れ親しんだ任務なのである。ベンソン大管長は42年の長きにわたって教会幹部として働いてこられた。その間、会員数は100万足らずから600万に達し、伝道の業は96カ国、18の未編入地域または保護領に及んだ。この新しい大管長は数十年にわたる召しの間に6大陸の数知れぬ国々を訪れ、世界中の会員の尊敬を勝ち得てきた。

ヒンクレー副管長は4年余りキンボール大管長の副管長を務め、大管長の容体が思わしくなくなってからは、世界の教会業務に関してしばしば指揮を執った。彼は27年にわたって教会幹部を務めてきた。

モンソン副管長は、22年間、教会幹部の席にある。彼は広範囲にわたる責任を果たしてきたため、世界中の会員、特にヨーロッパの会員の間ではよく知られている。

ベンソン大管長は、1899年8月4日、アイダホ州ホイトニーに生まれ、1926年9月10日にフローラ・スミス・アミューゼンとソルトレーク神殿で結婚し、2男4女をもうけた。

1927年、アイオワ州立大学の農学部から修士号を取得後、ベンソン大管長は夫人と共にホイトニー近郊の農場に住み、1929年、アイダホ大学の郡農事顧問となった。ここでついにワシントンへの道が開かれ、農業協同組合全国協議会の書記となり、全国農業信用組合のメンバーとなり、農業協同組合ならびに土地供与により設立された大学の組織である全米協同組合協会の理事会役員となった。

ベンソン長老が十二使徒評議会に召されたのは1943年7月、アイダホ州ボイシ、ワシントンD.C.のステーキ部長など、多くの責任を果たしたあとのことであった。また彼は、第二次世界大戦後間もな



十二使徒評議員会会長
マリオン・G・ロムニー長老



十二使徒評議員会会長代理
ハワード・W・ハンター長老

くヨーロッパ伝道部の伝道部長に召され、伝道の再開や教会員の苦難軽減のためにヨーロッパで1年を過ごした。

1952年、彼はデビッド・O・マッケイ大管長の承認を得て、ドワイト・D・アイゼンハワー大統領の招請を受諾し、同政権下で合衆国農務長官の任に就き、2期8年間この任務を果たした。また、アイゼンハワー大統領の指示により閣僚会議を祈りによって開会することが習慣化されたが、そのきっかけを作ったのがエズラ・タフト・ベンソンであった。

ベンソン長老は公的私的奉仕によってたびたび表彰され、バレー・フォージのフリーダムズ・ファンデーションでジョージ・ワシントン名誉メダルを4回も受けた。また、1957年、合衆国の余剰食糧でイタリアの食糧危機を救った功績により、イタリア政府最高の勲章であるイタリア共和国有功勲章大十字章を受け、さらに1978年、農業の組織化に顕著な功績があったために米国農業連盟から表彰された。また、4つの大学で取得した学士号や修士号のほかにも、11の名誉博士号を受け、多くの栄誉を受けた。

教会の奉仕や政府の仕事に加えて、スカウト活動に対する貢献もよく知られている。ベンソン大管長は、スカウトの成人指導者として数十年も働いており、米国ボーイスカウト連盟理事会、また諮問委員会の役員としても活躍してきた。ベンソン大管長は、ボーイスカウトの3つの最高の賞、シルバー・アンテロープ、シルバー・バッファロー、シルバー・ビーバーを持っている。

ヒンクレイ副管長は1958年4月6日に

十二使徒補助に召されて以来、ずっと教会幹部の地位にあり、1961年10月5日に十二使徒評議員会に召され、1981年7月23日にキンボール大管長の副管長に召され、1982年12月2日に大管長第二副管長となった。

1930年代半ば、若きゴードン・B・ヒンクレイはヒーバー・J・グラント大管長から、教会のラジオ、広報、出版に関する委員会を組織し書記として働くように要請された。これが今日の広報プログラムの前身である。彼は初めてエレクトロニクスを教会の広報に導入した。教会幹部に召されたのは、伝道委員会の幹部書記として働いていたときのことである。

ヒンクレイ長老は十二使徒定員会の責任によりアジア、ヨーロッパ、南米における教会の業を監督した。また、委員会の責任によりこの地域で、神殿、伝道、コーリレーション、福祉、神権、軍隊に属する会員を管理し、また1980年の教会設立150周年には、実行委員会の議長を務めた。ヒンクレイ長老は中央教会教育管理会の教育役員会のメンバーであり、教会教育制度の高等教育理事会のメンバーでもある。

ヒンクレイ副管長は多くの会社の役員を務め、いくつかの市民団体でも働いていた。

モンソン副管長は、1963年10月4日、36歳の若さで十二使徒評議員会に召された。彼は、中央教会教育管理会のメンバーであり、ブリガム・ヤング大学理事会役員であり、聖典発行委員会の委員長でもある。また、ユタ州大学聖職理事会の理事、合衆国大統領ロナルド・レーガン

の諮顧問で構成される特別調査委員会の委員としても働いている。

教会幹部に召される前、モンソン副管長は出版印刷業界で働いていた。彼はデゼレト・プレス社の部長を務め、その当時から今日までデゼレト・ニュース社の社長兼会長を務めてきた。また、ユタ州販売促進役員会、ソルトレーク広告共済会、ソルトレーク交易共済会のメンバーであり、パイオニア・ステート・シアトル財団の顧問でもある。また、ユタ印刷業者団体会長、全米印刷業者団体会長を務めたこともある。

現在はボーイスカウトの全米役員会の役員であり、シルバー・バッファロー賞の保持者である。

ロムニー会長は、1941年4月6日、最初の十二使徒補助に召され、1951年10月11日、同評議員会に召された。また、1972年7月7日にはハロルド・B・リー大管長の第二副管長になり、スペンサー・W・キンボール大管長にも第二副管長として指名され、1982年12月2日には第一副管長に指名された。また1936年以来、ほとんど常に教会福祉プログラムの旗手であった。

ロムニー会長は、若い頃をメキシコの農場で過ごしたが、これは1912年メキシコ独立戦争の折、両親がこの地に住むことを余儀なくされたためである。ロムニー会長は、父親が学長をしておられたリックス・カレッジを卒業した後も法律を志し、教会幹部に召されるまで、郡、州自治区、ならびにソルトレーク・シティの検事補を務めた。

ハンター会長代理は、1907年11月14日、アイダホ州ボイシに生まれたが、若い頃カリフォルニア州に移り住んだ。1959年10月10日、十二使徒評議員会に召されるまで、彼は南カリフォルニアで実業家兼法人顧問弁護士として活躍していた。

また、ハワイにある教会のポリネシア文化センターの所長、系図協会の会長も務めた。現在はコーリレーション委員会の委員、神殿系図評議員会の副会長として働いている。

また、いくつかの企業や不動産会社の役員、新世界考古学財団の役員もしている。

豊かで満ち足りた人生

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985)



この時を越えたメッセージは、最初「聖徒の道」1979年6月号に掲載されたものです。キンボール大管長は昨年11月に亡くなられる少し前、個人や家族の学習のための新しい大管長会メッセージとしてもう一度掲載するよう指示されました。本号では、生きておられれば今月で91歳になられたキンボール大管長をしのび、ここに再びご紹介します。

この重要な説教は、1977年11月4日、ユタ州オグデン、ウィーバー州立単科大学で行なわれたものです。

ナ ゼレのイエスの教えの中で強調されているものに次のものがある。

「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」(ヨハネ 10:10)

しかしこの言葉から、イエスの教えを死すべき世である現世で、より豊かな深い経験をするための方法を教えてくれるものとして限定してしまうのは間違いで

関心をほかの人々に向ける時間が多くなれば、それだけ自分のことをあれこれ思い悩む時間がなくなる。奉仕の奇跡の中枢に、まさしく自己を捨てる者は自己を見いだすというイエスの約束が存在するのである。

ある。

また、宗教史上には、人々がキリスト教は来世のものであると間違えて考えたときもある。そのような考え方のために、ある人々は現世に対して肯定的というより逆に否定的な見方をするようになり、そのために自分たちの現状を改善する努力を怠った。

今日私たちは、真のキリスト教は現世のみに重きを置くものではないことを思い起こす必要があるだろう。イエス・キリストの教えを今ここで生活に取り入れることにより、現世での生活はより豊かなものとなるが、すべてに勝るキリスト教の核心は、人が死を含むあらゆる敵に打ち勝つ機会を得ることにある。

ナザレのイエスがこの世に来られたのは、贖いをもたらすためであり、復活を通して地上のすべての人々に不死不滅を与えるためである。イエスの教えは確かに、私たちが地上で正しい生活を送り、より幸福になる助けを与え、イエスの偉大な犠牲は私たちに不死不滅を約束し、私たちは死後も引き続き自分自身として生きることができるのである。もちろん復活の事実を受け入れない人々もあり、それは彼らの権利でもありまた損失でもあるのだが、人生が永遠に続くものであることを語らずして、豊かな人生を語ることはできない。現世と言われるこの狭い世界の、私たちに与えられた短い期間の中で、完全な正義、完全な健康、完全な機会が万人に与えられることはない。しかし、恵みにあずかるにふさわしい生活をした人々には、結局神の計画に基づいて完全な正義がもたらされ、やがてほかの条件や祝福もすべて完全なものとなるときが訪れるのである。

そこで現世と呼ばれる短い期間の日々の生活の中に、このナザレのイエスの教えを確実に取り入れる方法を知ることが是非とも必要になる。

第1に、ほかの人々に奉仕することである。そうすれば、次のよりよい世界に住むための備えができると同時に、現世での生活をもっと意義ある楽しいものとすることができる。実際に奉仕することによってこそ、奉仕の仕方は学べるのである。私たちは隣人への奉仕に携わるとき、その行為によって人を助けるばかりでなく、自分自身の問題を新たな観点から眺めることもできる。関心をほかの人々に向ける時間が多くなれば、それだけ自分のことをあれこれ思い悩む時間がなくなる。奉仕の奇跡の中枢に、まさしく自己を捨てる者は自己を見いだすというイエスの約束が存在するのである。

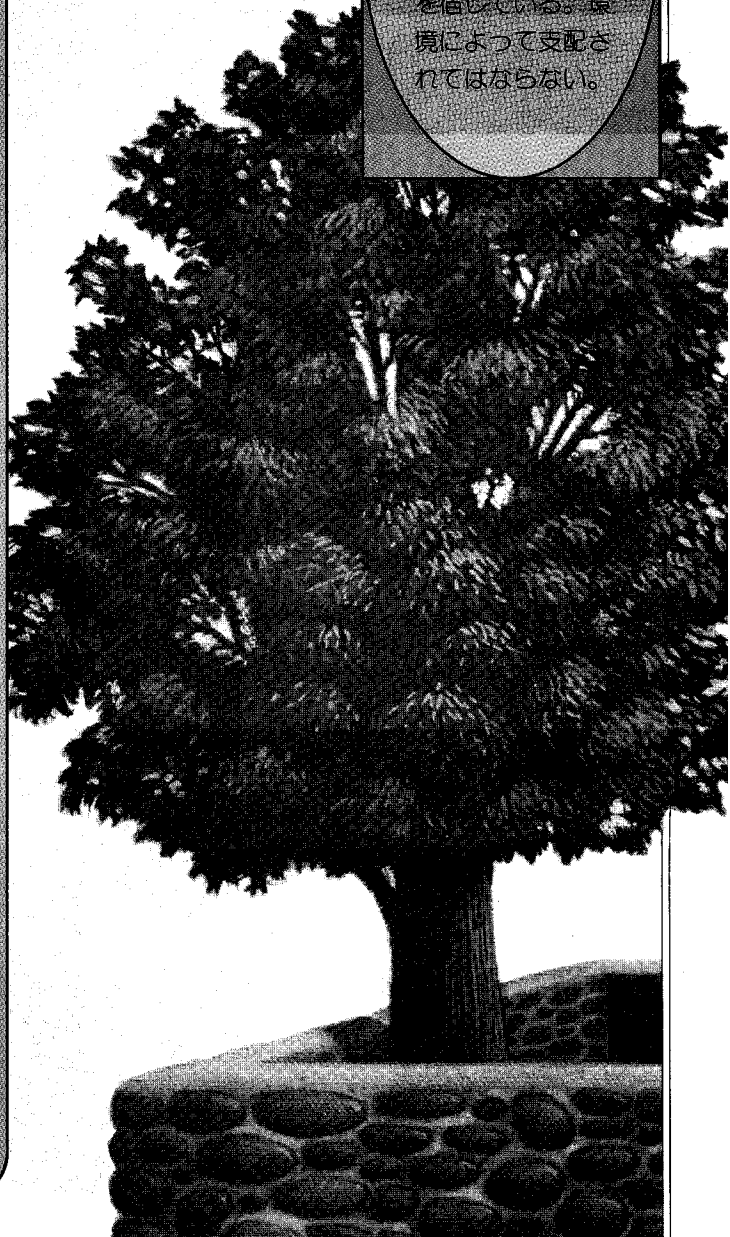
私たちは日々の生活の中に神の導きのあることを認めるとき、自己を見いだす。そればかりでなく、適切な方法で隣人によく奉仕すれば、その熱意に応じて、心の中に充実感を覚えるのである。私たちは他人に奉仕すればするほど、より深い意義のある、より充実し、生き生きとした人生を送るようになる。事実、自分自身を知ることは容易である。なぜなら、自分自身について知るべきことは数多くあるか

らである。

スコットランドの小説家であり詩人であるジョージ・マクドナルドは、「人と親しく心を通わせる方法は、愛されることではなく、愛することである」と語った。言うまでもなく、私たちは愛されることを必要としている。しかし、

どんぐりの実に大木となる力が秘められているのと同じように、人はみずからを変える力を宿している。環境によって支配されてはならない。

豊かで満ち足りた人生



健全な人生としっかりした目的意識を持ちたいと思ったら、いつも受けるだけではなく、与えなければならない。

第2に、イエスの教えは人生そのものに対して、また人生の中の様々な状況に対して正しい見方を培ってくれる。時折、問題を解決するためには、状況を変えるのではなく、そのような状況や困難に立ち向かう私たちの姿勢を変えなくてはならないことがあり、それによって私たちは、さらに豊かな奉仕の機会を的確に捕らえることができるようになる。

神は私たちを心にかけ、いつも見守っておられる。しかし、普通の場合、私たちの必要は第三者を通して満たされる。したがって、私たちは互いに奉仕し合うことが大切である。私たちは自己の人生観を高め、ほかの人々に対する見識を広めると同時に自己の可能性を伸ばしていくときに、豊かで満ち足りた人生を送ることができる。このように、キリストの教えに従えば、それだけで私たちは視野を広めることができ、このような広い視野を通してますます多くの奉仕の機会を見いだして霊的平安を得ることができるのである。言い換えれば、奉仕のないところに霊性はないのである。

当然のことながら、豊かで満ち足りた人生とは物質的なものを得ることとはほとんどかかわりがない。確かに、物質的にも恵まれ、その富を使って隣人を助けているすばらしい人々は大勢いる。しかし、聖典で述べられている豊かな生活とは、ほかの人々に対する奉仕を増し、私たちの才能を神と人類のために捧げることによってもたらされる霊的な祝福のことである。

イエスがこう言われたのは、よく知られているところである。「これらの二つのいましめに、律法全体と預言者たちが、かかっている。」(マタイ22:40) このふたつの戒めは、神を愛することから始まり、自分自身、隣人、そしてすべての人に及ぶものである。これらの偉大なふたつの戒めを守り、実行せずして真の豊かな人生はあり得ないのである。

私たちの生活が、私たち自身を天父や隣人に近づけるものでなければ、どうしてもない空虚さだけが残ることだろう。今日の多くの生活様式が、家族や友人、仲間たちから私たちを引き離し、ただ快楽と物質のみを飽くことなく追求する原因となっているのがその例である。これは何と驚くべきことであろう。家族や社会、国家への忠誠を片隅に押しやることにより、幸福を生み出すという誤った考えのもとに、ほかの事柄を優先して追い求めることがよくある。ところが実際には、利己心はあまりにはかなく過ぎ去っていくむなしき快楽の追求にすぎないことが多いのである。快楽と真実の喜びとの違いは、快楽の中のあるものは他人の苦痛を代価としてのみ得られるが、喜びは無私と奉仕から生み出され、人々を傷つけることなく人々に益をもたらすということである。

このように問題の横溢する世の中であって、ほかの人々

に奉仕するというような簡単なことをどうしてそうも重要視するのかと不思議に思う人もいる。しかしイエス・キリストの福音は、私たち自身を含め、この地球上に住む人々すべてに対する見方を変える。それによって私たちは真に大切な事柄を見きわめ、競って世の人々の注意を引こうとする、あまり重要ではない様々な事柄に惑わされることがなくなるのである。

私たちは人類を変えようとする前に、まず自分自身が変わらなければならない。ある賢人はこう語っている。「人は皆、自己を改善することを忘れて他人のことに干渉し過ぎる。その結果、何ら変わることがない」と。豊かで満ち足りた人生は自分に始まり、次いでほかの人々に広がってゆくものである。私たちが豊かさや正義を備えているならば、ほかの人々の生活を変えることができる。それは、私たち一人一人が立派な人々のよい感化を受け、彼らがいなければ得られない豊かさを受けてきたことを考えればわかることである。

もし私たちが良き指導者になろうとするならば、私たちに奉仕し、導きと教えを与えてくれた人々がどんな人々であるかをよく考えてみるべきである。あなたの人生に最も感化を与えた人を2、3名選んでみていただきたい。人生の苦難に直面したときに彼らはどのような特別なことをして、あなたを最もよく支えてくれたであろうか。彼らはあなたのことを心から心配し、あなたのために時間を割き、あなたにとって必要なことを教えてくれたことがわかるに違いない。

そして今度は、人を助けるというこうした基本的な特性を、あなたの生活の中で具体的に実践しているかどうかについて反省してみてほしい。記憶をたどってみると、心に残っている人というのは特別な技巧を用いたということとはあまりなく、大抵は愛と理解の心を示し、私たちのために時間を割き、模範の光を通して道を示すという方法で奉仕し、助けてくれたのである。それゆえ今まであなたがほかの人々に依存して特別な導きと教えを受けてきたように、今度はあなたに依存している人々に同じことを行なうことが大切であることは、いくら強調しても強調しすぎることはない。真の愛は決して無駄に終わることはなく、また真の奉仕はどんな場合にも何らかの意義があることを忘れてはならない。

「豊かで満ち足りた人生」について語るという召しを誠実に果たすためには、次のことを是非とも述べなければならない。イエスは、人生を豊かで満ち足りたものにしようと語ると同時に、その豊かさを生み出す福音の基本原則をも示してくださった。人間の苦しみには、戦争、病氣、貧困など、数多くの原因がある。これらのどれひとつをとってみても、その苦しみは確かにとても大きいですが、私の義務を誠実に果たすためには、こう言わなければならない。中でも最も長く、最も大きな苦痛を伴うのが罪惡すなわち

豊かで満ち足りた人生

神の戒めに背く行為である。例えば、結婚前の純潔、結婚後の貞節を完全に守らない人には、豊かで満ち足りた人生はあり得ないのである。偽り、盗み、不正を働く人には、高潔や正直を目指そうとする気持ちは起こり得ない。ねたみやむさぼりの気持ちがあつては生活を麗しいものとすることができない。両親を敬う気持ちがなければ、生活を真実の意味で豊かにすることはできない。もっと豊かで満ち足りた生活をするために私たちに何ができるかもう少し詳しく知りたければ、まず自分の良心に問いかけていただきたい。大抵のことは、それで解決できる。

あなたが何のために他人へ奉仕し、あなたの時間や才能、財産を使うのかを考え、良い目的を選ぶよう注意していただきたい。あなたが全力を尽くして自由に奉仕し、あなたと奉仕を受ける人々にとって大きな喜びと幸福をもたらし得る目的は非常に多くあるからである。それに対し、時折もっと流行に合い、世の賞賛を博するような目的もあるが、それらは大抵より利己的な性質のものである。これらの後者の目的は、神の戒めではなく、聖典の中で「人間のいましめ」と呼ばれているものから生じている。その目的には、美德と効用もあることはあるが、神の戒めを守ることから生じる目的ほどには重要ではない。

より豊かで満ち足りた人生を送るためになさなくてはならないことについて考えれば考えるほど、主キリストの言葉に含まれる大切な原則について考えるようになってくる。そして主に従って歩むならば、恐れではなく信仰によって生活することができるであろう。もし私たちが人々に対して主と同じような見方をするならば、人々に不安や恐れを抱くよりも、彼らに愛を示し、奉仕し、手を差し伸べることができる。

若いときには、時間はあっという間に過ぎ去る。無目的な旅は無駄である。はっきりとした目的地を持たなくてはならない。人生に何を望むかを決め、その目標に到達するようあらゆる努力を傾けるべきである。人生はただ飲み食いしたり、楽しんだり、お金を稼いだりすることだけではない。ところが、えてして若い人々は、最も安易な道を歩みやすく、「ちょうど風に吹き散らされるもみがらのように、またちょうど帆もいかりも舵もなしに波のまにまに漂う船のように」(モルモン5:18)なりがちである。

私たちは全き者となることにより、この豊かで満ち足りた人生を得ることができるとパウロは示した。

私たちのほとんどは、完全とは程遠い存在である。だからと言って、それは私たちが完全になることができないということではなく、まだその目標に到達していないということにすぎない。キリストも、もともと完全ではなかった。しかし、苦難に打ち勝たれた。飢えや渇き、寒暑、苦痛、悲しみと、まさにありとあらゆる苦難の連続であった。しかし、その度にその苦難に打ち勝ち、完全へと近づいていかれたのである。

パウロはこう語った。「そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源となり……。」(ヘブル5:9)

「なぜなら、万物の帰すべきかた、万物を造られたかたが、多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであつたからである。」(ヘブル2:10)

完成への道は長く険しく、その途中には多くの誘惑が待っている。一日で到達できることではない。勝利を得るためには、不斷の努力を積み重ねなければならない。敵に打ち勝ち、私たち自身の人生の戦いに勝つためには、永遠に努力し続けなければならない。気が向いたときに少しずつ努力しただけでは達成することはできない。絶えずしっかりとした目標のある正しい生活を送らなければならないのである。

私たちにはこのような豊かな人生を送る力があるだろう。詩篇には次のような靈感あふれる言葉が書かれている。「人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。

ただ少しく人を神よりも低く造って、

栄えと誉とをこうむらせ、

これにみ手のわざを治めさせ、

よろずの物をその足の下におかれました。」(詩篇8:4-6)

人間は環境に支配される存在であり、環境を乗り越えることはできないと言う人がいる。あきらめ、失敗、あらゆる不道德、そしてさらには弱点や犯罪すらも正当化しようとする人々は明らかに間違っている。幼年および青年期の環境が影響力を持っていることは確かである。しかしそれにもかかわらず自由意志を持っている普通の人間ならだれにでも、川の流れに逆らって^かいをこぎ、新たな活動や思い、発展の翼を広げる力が備わっているはずである。人は自分自身を変えることができる。いや、自分を変えなければならないのである。

アブラハムもそうであつた。彼の家族は偶像を崇拜していた。しかし、アブラハムは真実の生ける神を礼拝する人々のために神権時代を開いた。モーセは貧しい奴隷の境遇の下に生まれた。しかし宮殿で育てられ、多くのすばらしい機会に恵まれた。そして、人が到達できる最高位にまで上げられ、神と共に歩き、神と語ることができた。

タルソのサウロは生まれてからそれなりのしつけと訓練を受けたが、自分自身を完全に変え、主の使徒になった。パウロはコリント人へ次のように語った。「しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。」(Iコリント9:25)

このように自分を変える鍵となるのが克己である。人は皆、自分の生活を振り返り、自己の希望、欲望、熱望を吟

味し、それを抑えて生活しなければならない。

人は自分自身を変えることができるし、また変わらなければならない。人はみずからの中に、神のようになる種を宿しているのである。それは大きく生長する可能性を秘めている。どんぐりの実が生長して大木となるように、人は成長して神となるのである。みずからの努力により、自分を当然あるべき姿にまで引き上げるのは、その人の内に秘められた力である。それは長く、多くの障害を乗り越えなければならない困難な仕事かもしれないが、その可能性は確かなものである。

言い換えれば、環境によって自分の限界を定めてはならない。また、環境から自分の行く末を判断してはならない。ましてや、壁を作って自分を牢の中に無理やり閉じ込めるようなことをしてはならないのである。

人が完全を目指すとき、その出発点はいろいろある。(中年あるいは老年になってから改宗した人も多い) 完全な夫になることもできるし、完全な妻になることもできる。あるいは完全な父親、完全な母親、完全な指導者、完全な僕になることもできる。結婚は神聖な水準を保って行なわれなければならない。人生は慎重に歩まなければならない。だれも皆みずからを清め、肉欲、姦淫、同性愛、麻薬などから遠ざかり、敵を避けるように醜い汚れた思いや行ないを避けなければならない。ポルノ小説やわいせつな話、ポルノ映画は汚染された食物よりも悪い。それらに近づいてはならない。身体には悪い食物を取り除く力がある。しかしわいせつな小説を読み、ポルノ映画を見る人は、それらを優れた人間のコンピュータである頭脳に記憶させてしまう。そのような汚れは、頭脳にいったん記憶されるといつまでも残り、いつでも呼び戻すことができるようになってしまうのである。

前に述べたように完全を目指す過程の中で、私たちは自分の生活を変え、どのような環境の下でも悪を善に変えることができる。ひとつずつ取り組みれば、必ず最善の変化が得られるのである。

永遠の見地から考えて自分の行動を決めるようにすれば、この世における管理はうまくいくであろう。また、人生の目的に関するイエスの教えを深く理解すれば、それだけ私たちがどういう立場にいて、どういう人間であるかという意識もはっきりしてくる。さらに父なる神の特質を受け入れる程度に応じて、私たちは人類の間に兄弟愛を広めていくことができるのである。ゲツセマネの園やカルバリの丘でナザレのイエスに起こったことを理解すればするほど、私たちは自分の生活に犠牲や無私の精神がどれほど大切であるかがよくわかると思う。

今日の世の中にはますます利己心が満ちあふれ、自分自身よりも他人に、より多くのことを要求する人が増えている。

利己的な人には人間的な魅力はないし、知りたいという興味も覚えない。それに対し、豊かで満ち足りた人生を送

っている人とは近づきになり、話し、学ばせてもらいたいと思う。この世の中ではそのような人は大変貴重であり、その影響を受けたいと望む思慮分別のある人々を引きつけないではおかないであろう。

最後に申しあげておくが、豊かで満ち足りた人生とは、ただ長く生きることではない。それは、人生の長さではなく、到達した高さ、質の問題である。ナザレのイエスの贖いのお陰で、私たちは不死不滅の体を受け、永遠に存在できるようになった。そして、もし私たちがその教えに従えば、この世においてまた来るべき世においてはさらに一層、豊かで満ち足りた人生を送ることができるのである。

ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに以下の点を話し合うとよいでしょう。

1. 今与えられているイエスの教えを実生活に当てはめることにより、もっと豊かで満ち足りた生活が送れる。
2. 奉仕は人生を甘美で意義の深いものにしてくれる。
3. 福音の教えは、環境を変えるのではなく環境に対する私たちの態度を変えるよう導き、人生と環境に対して正しい視野を持つよう、手助けをしてくれる。このように環境に対して態度を変えることにより、今までむずかしいと思っていたことがすばらしい奉仕の機会になることにしばしば気づくようになる。
4. この世の中には重大な問題があるが、本当に人類を変えたいのなら、まず自分自身が変わらなければならない。そうしてはじめて、ほかの人の生活を変えることができるのである。
5. 人類が苦しむ本当の原因は、いつも罪にあり、罪は神の戒めに従わないことにより生じる。
6. 自分を変える鍵となるのは、克己である。人は皆自分の生活を振り返り、そして克己心を身につけられるよう努力しなければならない。
7. 天父は、私たちが願い求めるなら、生活を改善することができるように助けてくださる。

話し合いを進めるために

1. 現世にあって幸福な生活を送るために生活を変えることが大切であるということについて、あなたの感じていることを述べる。家族の人々にも感じていることを話してもらう。
2. このメッセージの中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。
3. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておくとよい。家族関係について、定員会指導者や監督から家長にあてられたメッセージはないだろうか。

豊かで満ち足りた人生



「主に向って勧めをしようとは しない」

第一副管長(現十二使徒評議員会会長)
マリオン・G・ロムニー

モ ルモン経の偉大な予言者ヤコブは、末日に生きる私たちに、「主に向って勧めをしようとはしないで主から訓戒を受けよう」と(ヤコブ4：10)と忠告しています。

思うに、主に向かって勧めをするとは、知っているにせよ知らないにせよ主の勧告を軽んじることであり、代わりに自分の意見や人の主張を用いることです。これはだれにでもよく見られる人間の弱さです。しかしそれを克服できないうちは、ほかにどんな賜や才能があろうとも、主のみたまに本当に近いという気持ちを感じることができません。

一方、主の勧めが何であるかを知って

それに従う人は、おのずからみたまとの近しさを感じます。神と地上の子らとの交わりの歴史が始まった当初から、主の勧めをないがしろにする人々は道を誤り、行く末は悲惨以外の何ものでもないことが立証されています。

例を取れば、サムエルの時代に、イスラエルは王を要求しました。「今ほかの国々のように、われわれをさばく王を、われわれのために立ててください。」(サムエル上8：5)民は、主の勧告に従うよりも、周りの異教の国々のようになる方が大事だと考えたのです。主は予言者サムエルを通じて、はっきりと反対されました。

『「あなたがたを治める王のならわしは次のとおりである。彼はあなたがたのむすこを取って、戦車隊に入れ、騎兵とし……」

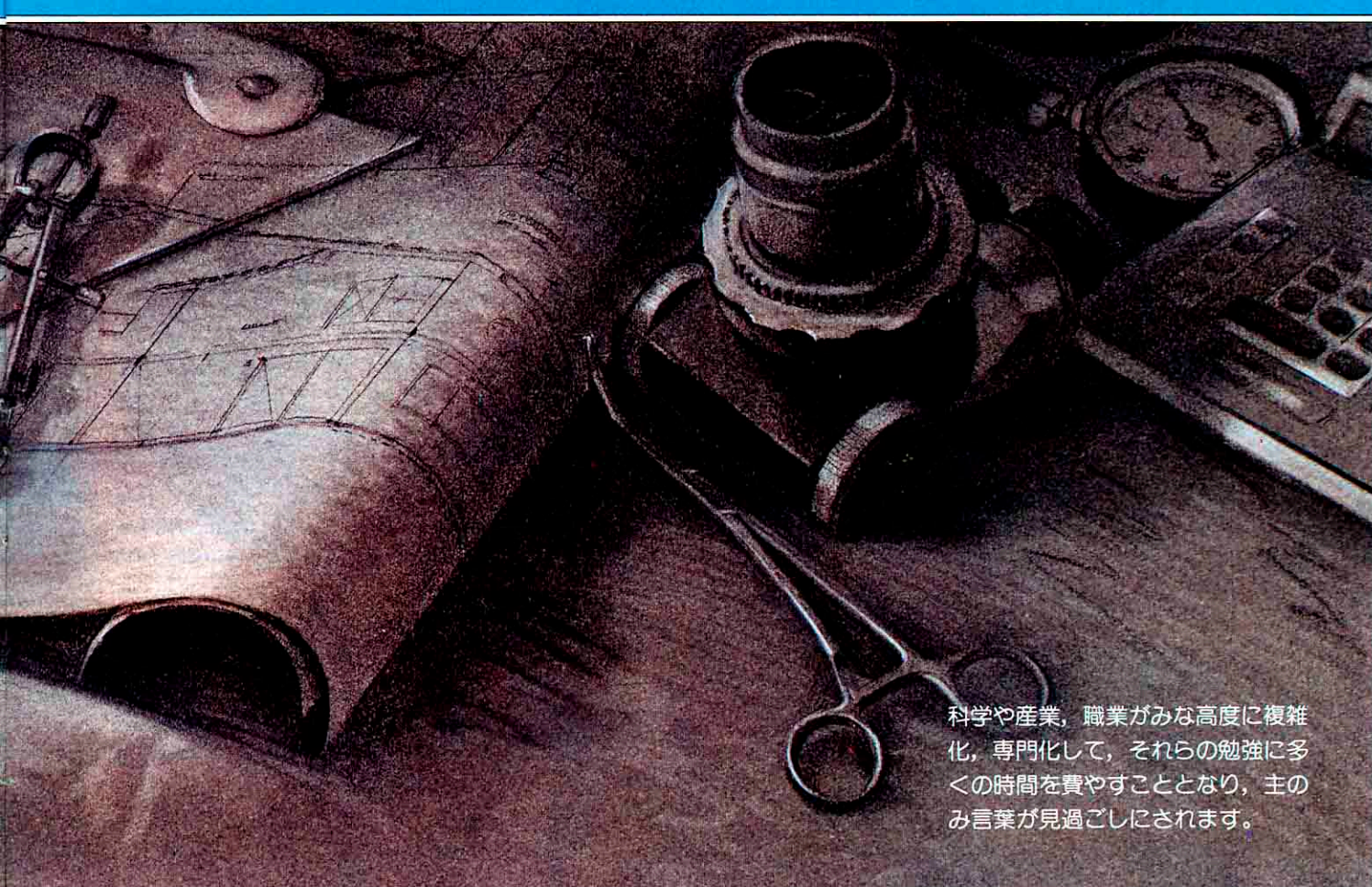
また、あなたがたの娘を取って……料理をする者とし、パンを焼く者とするであろう。

また、あなたがたの畑とぶどう畑とオリブ畑……を取って、……

あなたがたの穀物と、ぶどう畑の、十分の一を取って、……

あなたがたは、その奴隷となるであろう。……』

ところが民はサムエルの声に聞き従うことを拒んで言った、『いいえ、われわれ



科学や産業、職業がみな高度に複雑化、専門化して、それらの勉強に多くの時間を費やすこととなり、主のみ言葉が見過ごしにされます。

を治める王がなければならない。

われわれも他の国々のようになり……。』(サムエル上8:11-20)

サムエルは民の頑迷さを非常に悲しみました。主の忠告を無視してあくまで王を求めるならば国が衰退するということを知っていたからです。しかし、善を求めようが悪を欲しようが、常に人の自由意志を尊重しておられる主は、サムエルにこう言われました。

「民が、すべてあなたに言う所の声に聞き従いなさい。彼らが捨てるのはあなたではなく、わたしを捨てて、彼らの上にわたしが王であることを認めないのである。」(サムエル上8:7)

知ってのとおり、イスラエルは王(サウル)を立てました。それから数世代して、国は分かれ、民は捕らえられて、イスラエルは散り、ユダは国々の間でこわごととなり、笑い草となったのです。

主の勧告をないがしろにすれば悲しみ招くということの次の例は、サウルです。主はサムエルを通じ、アマレク人の

家畜をみな殺すようにとサウルに告げました。しかしサウルは羊と牛、らくだ、ろばの最上の物を残しておきました。やがてサムエルがやって来ると、サウルは出てきて偽りを言いました。「どうぞ、主があなたを祝福されますように。わたしは主の言葉を実行しました。」(サムエル上15:13)サムエルは問いました。「それならば、わたしの耳にはいる、この羊の声と、わたしの聞く牛の声は、いったい、なんですか。」(サムエル上15:14)サムエルが欺かれないことをサウルは知らされました。おそらくどぎまぎしたでしょう。サウルはやや自信を失って答えました。「人々がアマレクびとの所から引いてきたのです。民は、あなたの神、主にささげるために、羊と牛の最も良いものを残したのです。そのほかは、われわれが滅ぼし尽しました。」(サムエル上15:15)

するとサムエルはきっぱりとサウルに言いました。「主はあなたに使命を授け、つかわして言われた、……

それであるのに、どうしてあなたは主

の声に聞き従わないで……。』(サムエル上15:18-19)

サウルは自分が主に逆らってきたことを承知していました。それなのに、罪を民に転嫁しようとして、サムエルにこう言いました。「わたしは主の声に聞き従い、……

しかし民は滅ぼし尽すべきもののうち最も良いものを、ギルガルで、あなたの神、主にささげるため、ぶんどり物のうちから羊と牛を取りました。」(サムエル上15:20-21)

するとサムエルは、今日の私たちにとっても重要な、内省を促す質問をサウルに問いかけたのです。

「主はそのみ言葉に聞き従うことを喜ばれるように、

燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。

見よ、従うことは犠牲にまさり、

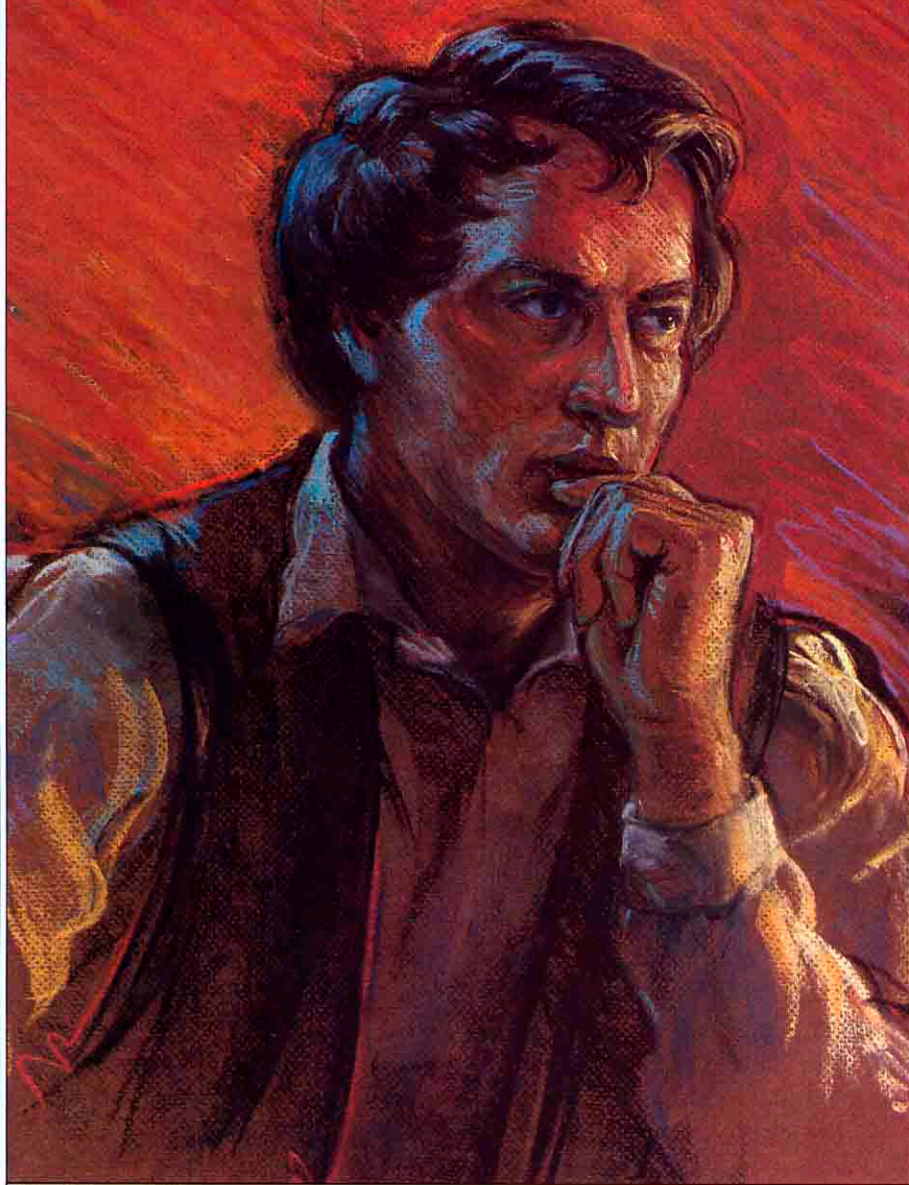
聞くことは雄羊の脂肪にまさる。

そむくことは占いの罪に等しく、

強情は偶像礼拝の罪に等しいからであ

る。」(サムエル上15:22-23)

予言者ジョセフは、モルモン経が 116 ページ紛失してから、自分が主の導きを拒んだことに気づき、深刻に悩みました。



主の勧告に反抗するとき、私たちは強情になり、主の靈感による導きを拒みます。

しかし幸いなことに主は私たちを愛しておられ、私たちが正義に従おうと真心から願うならば、「訓戒を受ける」ことができるようにいつでも助けてくださいます。そのことは、予言者ジョセフ・スミスがよく知られたひとつの体験から学ぶことができます。予言者はマーテン・ハリスから執拗に頼まれ、友人たちにモル

モン経の116ページにわたる原稿を見せたいというので、3度主の許可を願いました。2度は許可が下りませんでしたが、ついに承諾が得られました。それから3週間近く経ち、マーテン・ハリスがなかなか原稿を返してくれないので、予言者は心配でいたたまれず、ニューヨーク州パルマイラの予言者の両親の家に向いて、マーテン・ハリスに会ったのですが、もしや紛失したのではないかというジョセフ・スミスの懸念は現実のものとなっ

たのでした。予言者の母親は、ジョセフとハイラム、マーテン・ハリスが夕食の卓を囲んだときのことを書き残しています。

「彼（ハリス）は食事をするようにナイフとフォークを取り上げましたが、途端に両方とも落としてしまいました。それを見たハイラムが『マーテン、どうして食べないのです。具合でも悪いのですか』と聞きました。するとハリス氏は両手をこめかみに当てて、悲痛な声で叫んだのです。『ああ、どうしたらいい、私はもう破滅だ！』

そのときまで不安を面に表わさずにいたジョセフがいすから飛び上がって、『マーテン、あの原稿を無くした？ 誓いを破ったのですか。あなたばかりか私にも責めを負わせるのですか』と叫びました。

『はい、無くしてしまいました。どこにあるのか、わかりません。』マーテン・ハリスが答えました。

ジョセフが言いました。『それでは、戻ってそう説明せよと言うのですか。とてもできない。どうして主に顔見せできましょう。至高者の天使から、どんな懲らしめを受けることでしょう。』

私はジョセフにそう嘆かずともよいと一生懸命言いました。けれど、どうしたところで彼を慰めることはできなかったでしょう。見れば家族のみんなもジョセフと同じような気持ちで、むせび声やうめき声、この上ない苦悩が家中を満たしました。しかしだれよりも悲嘆に暮れたのはジョセフでした。彼は不従順の結果をだれよりもよく知っていたからです。ジョセフは泣き悲しみながら、部屋を行ったり来たりし続け、ようやく日が暮れてから、勧めに応じ、少しばかりの食物を取りました。

翌朝、ジョセフは家へ帰って行きました。暗い気持ちの別れでした。あんなに大切に思っていたもの、尊い喜びの源であったものが、寸時にして、永遠に消え失せてしまったのですから。』（母ルーシー・マック・スミスによるジョセフ・ス

ミスの生涯」プレストン・ニブレー編, pp. 128-29)

マーテン・ハリスに原稿を渡したいと、主に再三せがんだ結果として、予言者からウリムとトミムや金版と翻訳の賜が取りあげられました。

しかしながら22歳のジョセフが真心から悔い改めて謙遜になると、以前の状態に戻りました。この出来事に関する啓示の中で、予言者は「人間の説き伏せ」に乗ったことを叱責され、神よりも人を恐れてはならないと言われました。また、忠実であるならば主は「その腕を伸し、^{かいな}悪魔のすべての火矢より汝を助け、^{なんじ}なやみの時ことごとく汝と共に在りしならん」(教義と聖約3:6-8を参照)という励ましをも受けました。

予言者ジョセフは、この経験から得た大切な教訓を決して忘れませんでした。主の恵みを再び取り戻したジョセフは、力強い回復の予言者として自分の使命を全うしたのでした。その教訓を、私たちも学ばなければなりません。予言者を通じて主から受ける導きや勧告に従った生活ができるように、自分自身を備える必要があります。

リーハイは息子ヤコブに忠告した中で、啓発的な言葉を語っています。「万物は万物を知る者の全智に^よって成った。」(II ニーファイ2:24) この言葉をそのとおりに解釈すれば、知恵はその人の知識に比例するということになります。

そうであるならば、わずかばかりの経験に基づいた人の知恵は、万物を知っておられる神の知恵に比べれば、いかに頼りないことでしょうか。

パウロは、コリント人にこう問うたとき、そのことを考えていたに違いありません。

「知者はどこにいるか。学者はどこにいるか。この世の論者はどこにいるか。神はこの世の知恵を、愚かにされたではないか。」

彼はさらに言っています。「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強

いからである。」(I コリント1:20, 25)

さて、私は教会員の多数が、意識して主の勧めに耳を貸さず、人の意見や自分の考えの方を大事にしているとは思いません。しかしながら、私たちは主の勧告が何であるかを常に知っていなければ、主の勧めの代わりに自分の考えを用いてしまいがちです。実際に、主のみ旨を知ろうと努めないならば、自分の考えに従う以外ないのです。

少なくともふたつの点で、私たちの生活環境が主の勧告を知ろうとするうえで障害となっています。第1に、現代は専門化した時代です。科学や産業、職業がみな高度に複雑化、専門化して、一人一人が自分の専門分野でひたすら勉強せねばという圧迫の下にいます。専門を越えて全体を把握する幅広い知識や広い理解といったものがあまり求められていないように思われるのです。第2に、通信報道機関や科学技術、生活形態を通じて、世界や世間の問題が次々と押し寄せ、あげくに私たちは飲食や睡眠、休息や仕事、それに旅行までスケジュールを片手に、何でもできるだけ早くやり遂げようと懸命で、そのため主の勧告を学ぶ時間がほとんどないのです。

その対策は、「汝らのところに永遠の厳粛なることを銘記すべし」(教義と聖約43:34)という主の勧めに従うことです。聖典を勉強しなさいという主の勧めに聞き従うならば、永遠の厳粛なることは私たちの心に刻まれます。祈りと聖典の勉強、家族の話し合いによって、正しく主に心を向けることができます。さらに、家庭や教会、職場における自分の務めについて、主のみこころを教わることができます。なぜならば、私たちは世の民とは異なって導きも受けており、常に学んではいるがいつになっても真理の知識に達することができないで、暗やみに取り残されているわけではないからです。私たちは、主の勧告をどこに見いだすか、そのありかをはっきり知っています。

(1)書き記された主のみ言葉である聖典、

(2)生ける予言者の勧告、(3)自分の責任や環境の範囲内で個人的に与えられる靈感と啓示。これらの生ける水の泉からあふれるばかりに飲むならば、教会員一人一人が祝福されます。忙しすぎる、疲れたと言って、この霊の水を飲まないでいてはなりません。水を飲んで得られる力や知恵、靈感は、あなたの努力の幾倍にもなってあなたを潤します。

願わくは、私たちがモーサヤの息子たちに倣うように。彼らは、私たち一人一人が持つと同じ力、すなわち正しい望みと、主の仕事に働く召しをもとに、出発したのです。聖典にはこう書かれています。

「アルマは……旅に出かけたが、その途中で思いもよらずモーサヤの息子たちに出逢った。モーサヤの息子たちはゼラヘムラの地の方へ旅をしているのであった。

モーサヤのこの息子たちは、天使が最初アルマに現われたときアルマと一しょに居た者たちであったから、アルマはこのような兄弟たちに逢って非常に喜び、ことにかれらがやはり元の通り主の教会の兄弟であったからまたその上^{ひとかた}一方ならぬ喜んだ。この兄弟たちはまことに正しい理解をもっている者たちで、神の道を知るために熱心に聖文を研究したから、すでに真理について深い知識を持つようになっていた。

そればかりでなく、かれらは非常に熱心に祈りと断食とをしたから『予言のみたま』と『啓示のみたま』とを受け、その教えを宣べるときには神に授かった権能と威勢とによって教えた。」(アルマ17:1-3)

私たちもそのようであるように。一人一人が、「主に向って勧めをしようとはしないで」、「神の道を知るために熱心に聖文を研究し」それを日々の生活に生かすことができるように願うものです。





'86年のスタートにあたって

「日々福音に沿った生活をしようと努力
している人にとっては毎日がスタート」

アジア地域会長会第二副会長

キース・W・ウィルコックス

新しい年を迎えると、私たちは過去1年間の生活を振り返り、新年の決意をします。年の初めは一層の向上を目指して新しい目標を立てるときなのです。

1986年に入ってもう2カ月が過ぎようとしていますが、日々福音に沿った生活をしようと努力している人にとっては、毎日がスタートです。もしまだ今年の目標を具体的に立てていない人がいましたら、今からでも決して遅くありません。きょう、立てましょう。

子供も大人もすべての人が自分の目標を立てるようにしてください。また、短期と長期の目標を立ててください。それに、目標は現実的なものでなければなりません。私たちは末日聖徒としての自分のイメージを一層良くすることを決意する必要があります。目標は個人的なものです。努力することを無意味だと考えてはなりません。どんな小さな流れでも雄大な滝になるのです。ふもとと丘ではなく、目標を持って山を目指してください。

今年の目標を立てるに当たって、それが霊的なものか実務的なものかは別として、すべて紙に書き出します。それが済んだら、自分にとって大切なものから順に番号をつけます。優先順位を決めるわけです。そして、その目標が本当に望んでいるものであるかどうかを考えます。こうして目標が決まったら、あとはそれを「実行する」だけです。

一人一人が次にあげる決意について考えてみてはどうでしょうか。

決意1：目標を立てることを決心する

1975年4月3日の地区代表への説教の中で、故スペンサー・W・キンボール大管長はこのように述べています。「目標を立てるのは良いことだと信じています。私たちは目標に従って生活するからです。私たちの目標は永遠の生命を得ることですが、これこそ最も大切な目標です。」目標を立てるということは、まずしっかりとした決意をするということです。

決意2：神の戒めを守る

神の示された原則に従う決意を約束したからと言って拘束されるわけではありません。神の原則に従うことは自由への道なのです。神の戒めを守ることによって得られる大きな喜びがわかるようになるのです。末日聖徒は今年、主のすべての戒めを守ることを決意してください。

決意3：主と隣人を愛する

テンプルスクウェアから流れる教会の放送の中で、スペンサー・キナードはこのように語っています。「幸福は、経験により、分かち合うことにより、与えることにより、そして何よりも愛することによりつくり出される。」

主は愛を教えられました。マタイによる福音書22章36節から40節にはこのように記されています。「『先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。』

イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあ

なたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。」

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。』」

決意4：時間を有効に使う

目標は立てても実行する時間がないと知っている人が大勢いるようですが、それを達成するかぎりは時間の管理です。エズラ・タフト・ベンソン大管長でも一日は24時間しかありません。それよりも多くも、また少なくともないのです。それは私たちも同じです。時間を貸してくれる銀行はないのです。私たちは時間を調整することはできません。時間は一定の速さで過ぎていくからです。

私たちはそれぞれ時間の上手な使い方をも身につける必要があります。時間をもっと有効に使い、していることよりも求められている結果に注意を集中する習慣を身につけることが必要です。ときどき私たちは物事を処理してしまうのではなく、一日中かきりきりになっていることがあります。私たちは効率だけでなく、結果も追求する必要があります。ある指導者は、よく働くのも結構だが、それよりも頭を使って働くようにと言っています。

自分の時間の使い方を15分ごとに書き出してみてください。これを1週間続けたら、15分ごとに使った時間を合計します。このようにすると、時間の使い方について、自分の意識と実際とにずれがあ

チャーチニュース

ることがわかるでしょう。

人生に責任が増えるにつれて、時間を上手に使うことがますます重要になってきますが、物事を効果的に行なうためのコツを一つ一つ身につけるように努めるならば、私たちはこのチャレンジに対処し、主のみ業に一層の貢献をすることができるようでしょう。

決意5：真理や知識に対する愛を深める

この世に持っているもので来世にまで持って行けるものはそう多くはありません。その中に知識という宝があります。

イエスは両親のヨセフとマリヤに連れられて過越の祭のためにエルサレムへ上りましたが、そのとき一緒に上京した人々の中には祭が終わらないうちに帰った

人々があつたようです。ヨセフとマリヤは帰り道かなり行ってからイエスがいなことに気づきました。そこでエルサレムへ引き返したところ、イエスはユダヤ人教師たちの中におられました。12歳のイエス・キリストは向学心に燃えていたのです。

それはジョセフ・スミスも同様でした。14歳のときに真の教会を捜し求め、答えを見いだすまではあきらめようとしませんでした。生涯にわたって示した学ぶことへの熱意は、ジョセフ・スミスのすばらしい特質です。

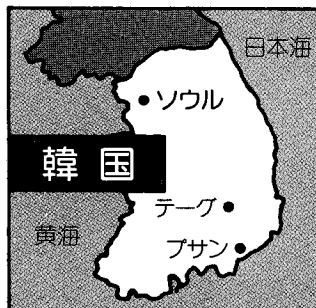
この精神はジョセフ・スミスがいろいろな国の言葉を勉強したことにも示されています。ジョセフ・スミスは実用的なヘブライ語の知識を持ち、しばしばドイ

ツ語の聖書も勉強しました。また、主の助けを得てエジプト語を判読することもできるようになりました。聖徒たちへの説教の中で12カ国語ぐらいを取りあげ、「もし長生きしたら、このすべてをマスターするつもりである」と述べています。

この1年が皆様にとって進歩の年となり、一層効果的に働くことができますように。どうぞ立派な目標を立ててください。固い決心をもって熱心に努力し、祈るならば、必ずや目標は達成できます。鉄の棒は、あらゆる目標の中で最大のものである永遠の生命へと導いてくれます。皆様一人一人がその鉄の棒にしっかりつかまって、まっすぐで狭い道を進んで行かれますように。

「朝の静寂の国」韓国にソウル神殿献堂

●セッションの合間に韓国の教会員とあいさつを交わす七十人第一委員会会員の菊地良彦長老



寒風吹きすさぶ12月の週末、「朝の静寂の国」と呼ばれる韓国において、新しい時代の夜明けを迎えた。10億人以上の人口を擁するアジア大陸における最初の神殿が献堂されたのである。

12月14日（土曜日）にはふたつのセッション、15日（日曜日）には4つのセッションが行なわれ、韓国の42,000人の教会員のうち12,700人が集った。

最初のセッションの前には短い定礎式が行なわれ、朝鮮半島や中国大陸の教会、神殿に関する歴史、資料、写真などが金属製の箱に収められ、密封して神殿の壁の中に埋め込まれた。

連日の強風と、零下17度から32度に及ぶ気温の中で、教会員の兄弟姉妹たちは長い列を作り、中には献堂式に出るために1時間以上も待っている元気な教会員もいた。また跳びはねたり手を叩いたりして体を暖めようとしている教会員もいた。待っている人々は互いに体を寄せ合い、交替で内に入っては体を暖めていた。中には讃美歌を歌い、霊を暖めていた人もあった。

献堂式の管理に当たったゴードン・B・ヒンクレイ第一副管長は、韓国の人々との長期間にわたる交際を懐かしんでいた。ヒンクレイ長老は、韓国国民は侵略

や戦争による苦難を受けてきており、そのため平和をこよなく愛する穏やかな民であり、ほかのどの国においてよりも、韓国において多くの涙を流したと述べている。

献堂式でヒンクレイ長老はこう述べた。「私が最初に韓国に来たのは25年前でした。私はそのとき50歳で、現在は75歳です。私は韓国に来て年を取りました。またこの地で多くの経験をしました。つらいこともありましたが、多くはすばらしいことでした。会員数が非常に少なく、み業もまだ十分に進められていなかった当時は、毎日が苦闘の連続でした。韓国

は朝鮮戦争では不利な立場にあったために、貧困に至る所で見られました。

私は冬に初めて韓国を訪れたときのことを覚えています。雪が空を舞っており、シベリアからの風が全地を吹き抜けていました。私はこの町の通りを歩いていて、家を失った多くの人々が、箱の中に入って寒さをしのぎようとしているのを目にしました。」

またヒンクレー長老は1980年10月21日のソウル地域大会での約束を引用している。「スペンサー・W・キンボール大管長は聖徒の皆さんにこう言われました。『もし皆さんが福音に従った生活をするなら、もし神から与えられた戒めに従順なら、またもし什分の一や捧げ物を正直に納めるなら、皆さんは主から祝福を受けるでしょう。十分な食物を与えられるでしょう。十分な衣服を与えられるでしょう。また冬も暖かく過ごせるでしょう。快適な生活を送れるようになるでしょう。』

キンボール大管長は予言者として話をしました。きょう私はこの予言が成就したことがわかります。貧困がまだ残っている所もありますが、生活の質はかなり満たされたものへと変わってきています。」

ヒンクレー長老は、通訳者として脇に立っている地区代表のハン・インサン長老の肩を抱いてこう語っている。「私はこの兄弟が貧困と苦闘に遭っていた時代を知っています。

東京神殿の献堂式のことをはっきり覚えていています。ハン兄弟はセッションで閉会の祈りを頼まれました。彼の奥さんはハン兄弟と共に日本に行くことができませんでした。法律により、韓国から来た兄弟たちはだれも奥さんを伴っていませんでした。(夫婦と一緒に国を離れることが禁止されていたのです) 兄弟たちは皆ひとりでセッションに参加していました。彼らはエンダウメントを受けることはできましたが、夫婦や家族の結び固めをすることはできませんでした。

ハン兄弟は祈りの中で、自分たちの故郷に神殿が建てられるようお願いしました。そうです。この宮居を奉獻する日が実現したのです。それは世界中に住む聖



●ソウル神殿献堂式に臨む教会員(民族衣裳であるチマ・チヨゴリを着ている)

徒たちに許されている特権と祝福と機会が、この地に住む聖徒たちにも与えられることを意味します。」

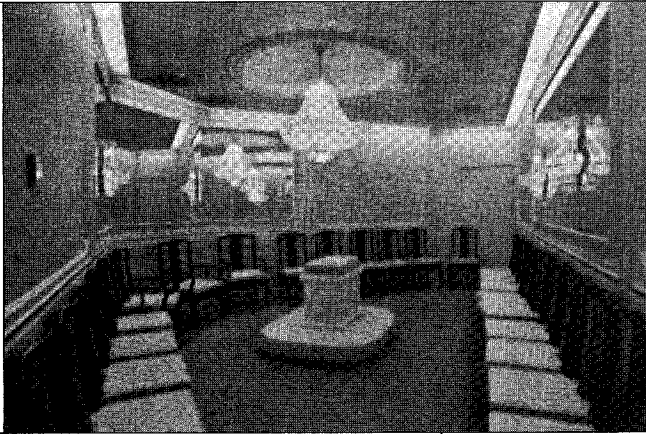
十二使徒定員会会長代理のハワード・W・ハンター長老は説教の中でこう述べている。『朝の静寂の国』と呼ばれるこの美しい国に最初の宣教師が渡ったときから比較的短時間のうちに、きょうという日を迎えることができました。宣教師たちが福音の種を蒔き、それが芽を出し生長して、すばらしい収穫の時期を迎え

るまでになりました。」

ハンター長老は、1981年4月1日に韓国に神殿が建つという発表がなされたとき、世界中の教会員がどれほど喜んだかについて語った。そのあとで聖書に書かれている神殿や末日における神殿の回復についての簡単な歴史を紹介し、神殿の目的について述べた。

「きょうの神殿の完成と献堂は、最も重要な出来事として皆さんに長く覚えられましょう。皆さんの国にはすでに福音

各地のたより



●ソウル神殿に4部屋ある「結び固めの部屋」のひとつ(1985年12月22日付「チャーチニュース」より転載)

が広められています。しかしこのことにより、さらに新しく大きな広がりが生まれるのです。」

七十人第一定員会会員であり、アジア地域会長のウィリアム・R・ブラッドフォード長老は、韓国での戦争に触れ、「このみ業の明確な方向づけをするためにも、この戦争は必要だったように思えます。……この神殿の献堂式に参加している方々の大部分は、韓国における教会員の最初の世代です」と述べた。

また開拓者だった彼自身の先祖に敬意を表し、こうつけ加えた。「私は韓国において末日聖徒の最初の世代である皆さんにお尋ねします。皆さんのお孫さんやそのお子さんたちは、皆さんのことを何と言うのでしょうか。皆さんの人生は、昇栄への道を彼らに示すものとなるのでしょうか。私はこの神殿を建てるためになされた皆さんの献身と犠牲を見てきました。神殿は完成し、今み業が始まろうとしています。皆さんの働きと献身はこのみ業の一端を担うものです。」

七十人第一定員会会員であり、アジア地域会長の第一副会長であるヤコブ・ディヤガー長老は、家族を永遠にひとつに結びつける神殿の儀式と誓約についてこう述べている。

「教会では『家族は永遠です』という言葉をよく使います。これはただ父や母、または子供たちだけのことを言うのでしょうか。あるいはもっと広い意味があるのでしょうか。天の王国が組織されるのは、この幾世代にもわたる家族によってなのです。」

きょうこの神殿の中にいる多くの方々は

シオン山の救い手となるでしょう。先祖の業績が生活の中に重要な影響を及ぼしているこのアジアにおいては特にそうです。この神殿は祝福となり、力となるでしょう。」

七十人第一定員会会員であり、アジア地域会長の第二副会長であり、ワシントン神殿の設計者であるキース・W・ウィルコックス長老は、神殿を「光の宮居」であり、知識と学問と理解の源であると語った。

ウィルコックス長老がワシントン神殿の設計を依頼されたとき、光と悟りが併せ持つ特性と、ダイヤモンド形の6つの角からそびえ立っている6つの尖塔を念頭において設計したと語った。「韓国神殿もまたダイヤモンド形の6つの角からそびえ立っている6つの尖塔をその特徴と

しています。またその尖塔は、光と悟りを全地に放っています。まことにこの神殿はすべてのものに対する道しるべとして立つでしょう。」

七十人第一定員会会員であり、教会の神殿管理部実務部長の役職にある菊地良彦長老は、韓国を訪問したことのある教会幹部について触れた。まず最初は1921年に訪問したデビッド・O・マッケイ大管長についてである。「マッケイ長老はブサンに到着し、列車に乗り満州まで行きました。彼はこの美しい土地に足を踏み入れた最初の使徒でした。私はきょう彼が私たちにほほえみかけていると確信しています。」

菊地長老はその後、ジョセフ・フィールディング・スミス長老とハロルド・B・リー長老について話した。彼らは後に大管長となった。また末日聖徒の軍人や宣教師が、韓国において教会の発展に重要な役割を果たしたこともつけ加えた。またキム・ホー・ジク博士の改宗談についても話した。

献堂式でのほかの話者は、大管長会特別顧問のデビッド・M・ケネディー兄弟、ロバート・H・スローパー神殿長と夫人のローズマリー・W・スローパー姉妹である。

またヘオ・チャエ第一副神殿長、パーク・ジャエ・アム第二副神殿長も話をした。

東京北ステーキ部独身成人合同 「家庭の夕べ大会」

ワード部の垣根を越えて、ステーキ部内の兄弟姉妹たちの間に家庭的な愛や一致の雰囲気をはぐくむという目的のもとに、私たち東京北ステーキ部独身成人プログラム評議会会長会は、初の試みである「家庭の夕べ大会」を計画しました。

この大会が計画された背景には、2年前に行なわれた大幅なバウンドリー変更のために、ステーキ部内の独身成人会員

がまだお互いによく知らないという現状がありました。また、ステーキ部単位の独身成人の行事も少なく、あっても親睦を図れる機会が少なかったという事情もありました。

そこで私たちは、集会は楽しく、しかも霊的なものも織り込み、親睦を図れるものとなるように計画し、兄弟姉妹たちの助けを借りて準備していきました。

1月11日の当日、参加者は10のグルー

各地のたより



●(左)「家庭のタベ大会」で「洋服つなぎゲーム」を楽しむ東京北ステーキ部独身成人 ●(右)「フィーリングカップル5対5」

ブに分かれ、各グループリーダーのもと、各種のゲームで勝敗を競い合いました。今年にちなんだ「ジャンボ・ジャンケン」(ジェスチャーによるジャンケン)、靴下まで脱いだ兄弟が続出した「洋服つなぎゲーム」、靴やコート、マフラー、ネクタイなどがホール一面に並べられた光景は、壮観という言葉がぴったりでした。また、出だしの3、4音で曲名を当てるといふ「讚美歌当てクイズ」も人々の熱気で大いに盛りあがりました。以上のゲームで各グループはしのぎを削りましたが、優勝チームには商品を、最下位チームにはペナルティーとしてアブラハム体操を踊っていただきました。

日大芸術学部落語研究会の西堀兄弟による名作落語「まんじゅうこわい」は特に教会員のために見事にアレンジされており、聴衆の大爆笑を呼んでいました。

豊島ワード部選抜の美人姉妹5名と、越谷ワード部選抜4名の兄弟たちおよび独身成人担当高等評議員の根本兄弟に特別参加していただいたフィーリングカップル5対5は参加者も聴衆も大いに楽しめる内容でした。楽しい催しのあとは、もうすでに召しを受けて1月に伝道に出る豊島ワード部の堤兄弟と福田姉妹に証をしていただきました。両者の簡潔な証の中には、これからの伝道に対する熱意や主に仕えようとする謙遜さがうかがわれました。

最後に根本兄弟からステーキ部の独身

成人に対して、メッセージがありました。「兄弟は姉妹を理解しましょう。姉妹は兄弟を理解しましょう」という今年度の独身成人のテーマに基づいて互いによく知り合うことの大切さや、さらには結婚に対してよく備えるよう強調されました。

閉会のあと、参加者全員に「会長会特製福袋」が配られました。参加して下さったある兄弟は「よく準備され、親睦が図られた楽しい集会でした」という感

想を述べてくださり、私たちは目的に対する達成感を味わうことができたのでした。

私たちは独身成人プログラムを通して、すべての人の必要を満たせるよう、また一人一人を強め、互いに理解を深められるように、一層努力を重ねていきたいとの思いを新たにしました。(レポーター：東京北ステーキ部独身成人評議会会長・高橋賢次)

渋谷ワード部のオリジナル劇 「TRIP：1846」を上演

「1846年冬、末日聖徒によるイリノイ州ノーヴーからの脱出は、合衆国の開拓史上の叙事詩と言うにふさわしい出来事のひとつである。彼らは、暴徒に追われ、命からがら酷寒の季節に、みずから手で築いた美しい町を後にした。

さて、彼らを待ち受けていたものは……？」

去る12月18日、渋谷ワード部ではクリスマスの一大イベントとして、「TRIP：1846」と銘打った演劇を上演しました。

正味45分の演劇ですが、教会初期の開拓者たちの姿を通して天父の愛を描こう

とした、脚本から演出まで渋谷ワード部オリジナルのものです。

私たちはワード部の一致と伝道に目標を置き、クリスマスの気持ちを少しでも多くの人と分かち合いたいと願いました。教会が東京の人々にその存在をアピールする第一歩にしようという気負いもありました。

しかし、労音会館という大舞台、4カ月という短い準備期間は、ワード部の兄弟姉妹にこれまで経験したことのないような犠牲を求めました。このチャレンジに臆せず立ち向かい、奉仕によって成功へと導いた仲間、今、心から兄弟、姉

各地のたより



●(左)渋谷ワード部の教会員によるオリジナル劇「TRIP: 1846」の1シーン(労音会館で) ●(右)渋谷ワード部出演者一同

妹、と呼びかけたい気持ちでいっぱいです。

キャストの兄弟姉妹は少しでも良いものにしようと、約1カ月の間、日曜を除く毎朝6時から教会に集い、練習しました。姉妹たちは朝食の準備に駆けつけてくださいました。大道具、小道具、衣装もすべて、「演劇は初めて」という面々が担当し、試行錯誤を繰り返しながらも、最後には皆が驚くほど立派なものを作りあげていきました。音響やダンスの振り付けも頑張りました。ほかのワード部の方も、チケットやポスターのために協力してくださいました。

多くの兄弟姉妹の奉仕がありました。そして負担を奉仕に変えていく中で、自分自身をより高い改宗へと導いた方々を見ました。直接参加されない方々も、お休み会員に呼びかけるなどして協力してくださいました。

私たちが一番心配したのは、434の席をどのくらい埋めることができるか、ということでした。ふたを開けてみると8割近く埋まっており、300名以上の方々が来てくださり、とても感謝しています。

インディアンの踊りや大道具、効果音などが好評だったようです。「良かった」「またやってほしい」などの声をいただいたときは本当にうれしく思いました。長い間お休みされ、今回一通の手紙で足を運んでくださった兄弟も、「自分の命を人のために捧げる大きな愛を教えられ

た」「クリスマスは教会で過ごしたい」とアンケートを寄せられました。

このイベントの意義をより大きなものにするため、働きかけを継続していくつもりです。また、最初から一致があったわけではありませんでしたが、監督会がいつも励ましてくださり、また多くの兄

弟姉妹の奉仕があり、私たちは自分の信仰の裏づけを与えられた気さえます。このような機会を通して、天父とイエス・キリストを証することができましたことを心から感謝します。(東京南ステキ部渋谷ワード部「TRIP: 1846」実行委員・阿部隆行)

心の豊かさを知った キャロリングの夜

盛岡地方部八戸支部
酒井 由紀子

外に出てみると、空気は冷たく乾いて、フーッと息を吐くと真っ白に見えました。暗い空を見上げれば、満天の星が美しく輝いています。とても静かな夜、1985年12月24日クリスマス・イブ。私は自分に「今年はすばらしいキャロリング日和だなあ」とつぶやきました。下を見るとうっすらと雪も積もっています。今年もまた、はまなす学園の子供たちに会えると思うと心が温かくなってくるのを感じました。

教会に行くと、もう兄弟姉妹やお友達、宣教師が集まっていてにぎやかで楽しそうです。やがて一室に集まり、開会してから配車や道順の発表を聞き、それぞれの車に乗り込んで、さあ、出発進行。

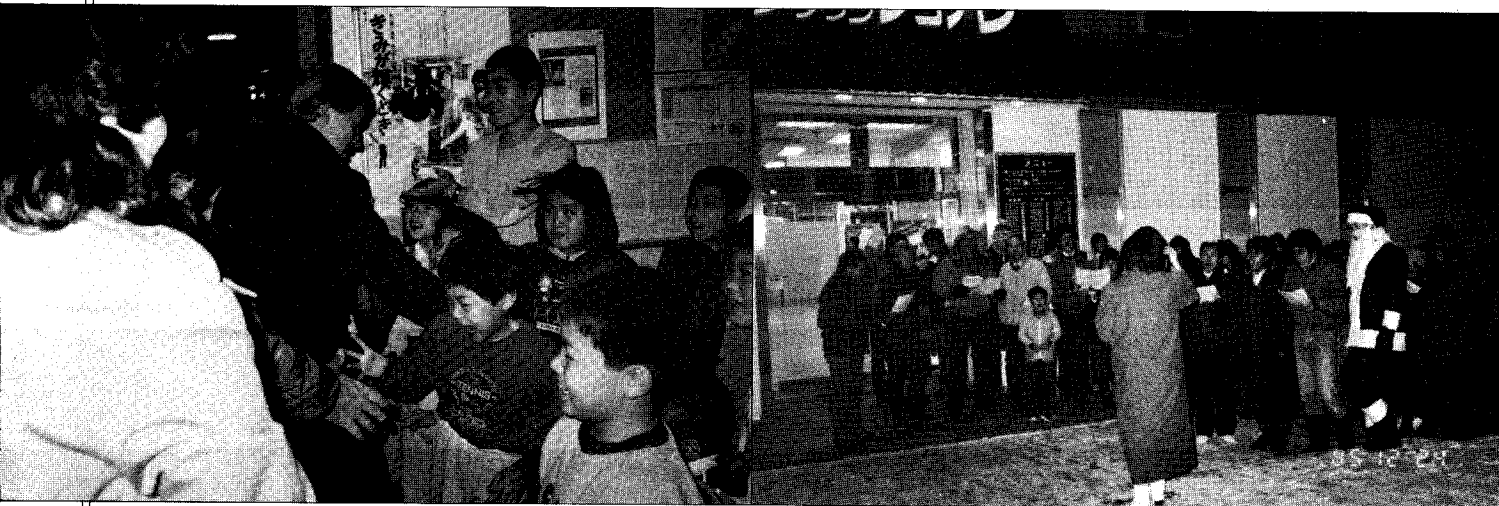
最初は、はまなす学園。(身体の不自

由な子供たちが機能訓練している施設) 私たちが到着すると、子供たちも集まってニコニコしながら、「今年も来たねー」という感じで迎えてくれ、お互いに「こんばんは」とか「こんにちは」とあいさつを交わして『聖しこの夜』や『神のみ子は今宵しも』を歌いました。

姉妹たちの楽しい踊りや神権者のかわいい猫の手品、宣教師の手品もあって、子供たちがとても喜んでくれ、サンタさんがプレゼントのお菓子を渡す頃にはすっかり友達になることができました。

最後に子供たち一人一人と握手しました。小学1年生くらいのかわいい小さな子もいて、何だか胸がいっぱいになりました。この子供たちが、楽しくて温かいクリスマスを過ごせますようにと心から願

各地のたより



●はまなす学園を訪問する八戸支部の教会員

●恒例となった八戸支部のキャロリング

いました。

私たちが初めてはまなす学園を訪問したとき、学園の先生は「キャロリングするのはかまいませんが、いらっしゃるなら毎年来てください。もし1回だけなら子供たちががっかりするからです」と言われました。それ以来毎年訪問することがのできるの心から感謝しています。

はまなす学園の次はお友達の岸原さんの玄関先で、その次は教会のすぐ近くの駅まで歩いて行って駅の前で歌いました。駅はさすがに人が多く、注目され、めずらしげに見つめられました。それから駅前前のとんかつ屋さんやお店の前で歌い、最後はストアの中で歌って教会に帰りました。

教会に戻ると、扶助協会の姉妹たちが用意してくださった温かいミルクやアイスクリームがありました。このひとときに今年も無事に終わったと心からホッと、また1年の最後が近づいたことを身をもって感じるのです。

私にとってキャロリングは特別な日です。それはキャロリングをすると兄弟姉妹の顔が違って見えるような気がするからです。神々しいこうごうというか俗世では得ることのできない霊の喜びを一人一人が感じているような清らかでやさしい顔になるのです。

我が八戸支部のキャロリングの歴史は、ささやかではありますが、確実に年を重ねてきました。(私の改宗した1977年にも

すでにキャロリングは行なわれていました)そこには神様の助けと兄弟姉妹の奉仕の心と愛があります。

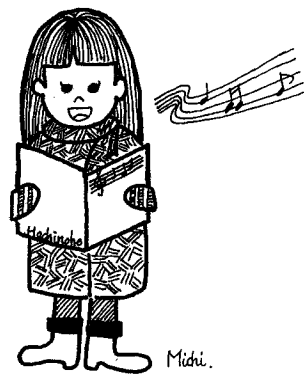
現在の八戸支部の支部長であられる小泉兄弟から聖歌隊のレッスンを受けましたが、みんな一生懸命歌っても、声小さかったり、高い音が出なかったり、音が下がってしまったりと本当に大変でした。また神権者が少なく、聖歌隊というには問題がたくさんありました。でも私たちは大会が近づいたり、クリスマスが近づいたり、いろいろな行事があるたびに練習を積み重ねてきました。その結果、驚いたことに、それまで出なかった音が出るようになったり、今のはとても良かったなど自分でも思えるくらいになりました。小泉支部長も、ときどきはほめてくださり、たとえ弱くても継続することによって得られる強さを、歌を通して知ることができました。

讃美歌の練習とともに、プレゼント用のクッキーやキャラメル作りも、キャロリングには不可欠のものです。姉妹たちが心を込めて作ってくださったそのお菓子は、愛が形となって表われています。12月も押し迫った忙しいときに、快く作ってくださることを本当に感謝しています。

教会に入るまでは、クリスマスというケーキを買って、飲んだり、食べたりだけで、楽しくはあっても、むなしいときを過ごしていました。しかし、キャロ

リングに参加することで、物の豊かさではなく、心の豊かさを知ることができました。そして、これらのことを通して、神様は確かに生きていらっしゃって、私たちすべての者を愛してくださることを、またイエス様が私たちに模範を示されたのは、まさにこのような行ないをなさいという意味があったことを深く感じることができました。

また、キャロリングをすることで多くの人々に教会を知っていただくこともでき、立派な伝道となっています。私は世の多くの人々が、たとえクリスマスをお祭りのように思っている、一方ではイエス・キリストのことを思い出す機会となり、とても伝道しやすいことに感謝しています。この八戸において、キャロリングがいつまでも続くことを心から願っています。そしてイエス様に心から感謝したいと思います。(さかい・ゆきこ 1949年生まれ、盛岡地方部宣教師)



教会の近所の方々250名と 祝ったクリスマスの夕べ

大阪ステークス部堺ワード部



と、宣教師のスキット、寒さを忘れて50分程の時間を過ごしました。その後子供たちは2階のホールで、青少年の作ったイエス様の紙芝居を熱心に見てから、お待ちかねのサンタクロースの出番を今か今かと心待ちにしていました。やがて、いっぱいプレゼントの入った大きな袋を肩に、サンタクロースがやって来て、子供たちは大喜びです。

一方、大人の方には礼拝堂に集まっていただいて、イエス・キリストの生涯のスライドをお見せしました。間に入る聖歌隊の美しいクリスマスの歌は、集まったすべての方の心に深く残ったことと思います。

最後に、私が短い話をさせていただきましたが、そのときは何人の方が涙を流しておられました。イエス・キリストの贖いについて証をしているとき、本当に強いみたまを感じました。

今までにもいろいろなプログラムを行なってきましたが、近所の方々が200余名も集まってくださったのは初めてでした。250名もの人々に、準備したリフレッシュメントが隠れて見えないほどでした。終わってから礼拝堂のいすに腰掛けて心の底から感謝の涙を流しました。文字どおり「世界一すてきなクリスマスの夕べ」でした。

堺ワード部の会員と宣教師に心から感謝し、彼らを誇りに思っています。また神様が助けてくださったことを心からへりくだり感謝しています。(レポーター：堺ワード部監督・小松忠)

「世界一すてきなクリスマスの夕べにどうぞ……」と教会の近所約2,000軒に、宣教師たちは地図を片手に配り漏れのないように配慮しながら案内状を配って歩きました。ただポストに入れるだけでなく、本当に真心から招待したい気持ちを伝えて手渡して歩きました。

教会の下半期のテーマが伝道でしたので、堺ワード部ではすべてのプログラムを伝道に結び付けてきました。その締めくくりとして、クリスマス・オープンハウスを計画しました。

今回のクリスマスの夕べでは、近所の方に気軽に来ていただけるように、駐車場に仮設のステージを作り、教会の外の壁に大きなクリスマスツリーのイルミネーションを、そして来てくださった方に暖をとっていただけるように、3つのドラム缶に火を燃やして、音響設備を準備しました。

いろんな心配がありました。風が強く吹いてもドラム缶の火は大丈夫かな？ 雨が降ったら外でのプログラムはできないし、人は大勢来てくれるかな？ など……。しかし、そんな心配も開会時

刻には、すっかりなくなっていました。風はピタリとやみ、空は快晴、まんまるいお月さんが真上から照らしてくれました。神様が助けてくださっていると強く感じました。

開会行事が終わって初等協会の子供たちのコーラスに移ります。赤々と燃えているドラム缶の火で子供たちのほっぺが真っ赤です。白いケープを肩にかけた子供たちはまるで天使が歌っているようでした。

独身成人の準備でゲームを楽しんだあ

初等協会の子供たちによるミュージカル 「イエスさまのおたんじょうび」

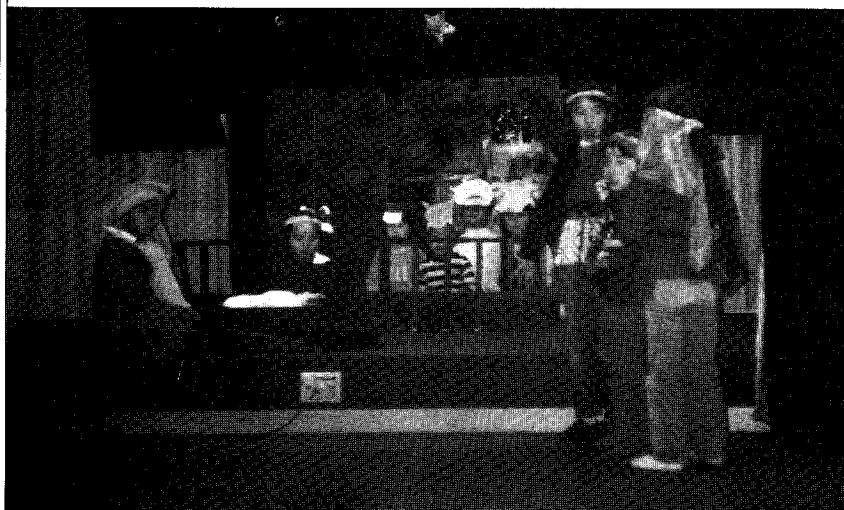
——名古屋ステークス部春日井支部——

新 築の教会堂を10月にいただいた春日井支部の会員にとって、昨年のクリスマスは特別なものでした。私たちは、教会堂の建築中から、近所の方々へのオープンハウスを兼ねたすてきなクリ

スマスパーティーを催したいと話合っていました。

このパーティーで初等協会は、ミュージカル「イエスさまのおたんじょうび」を上演することにしました。これはマリ

各地のたより



● 初等協会の子供たちによるミュージカル「イエスさまのおたんじょうび」

ヤへの受胎告知、ベツレヘムへの旅、降誕、羊飼いの訪問、博士たちの来訪の物語を、せりふなしで、20曲の独唱、斉唱、輪唱だけでつづったものです。

この準備のために、初等協会では4カ月前から分かち合いの時間を用いて練習してきました。上演に25分かかるだけに、歌が覚えられるだろうかとの心配をよそに、子供たちは驚くべき早さで覚えてしまいました。幼稚園児以上の子供たちは、全員が全曲を覚えてしまったので、だれでもどの役でもこなせるようになりました。男の子が歌う「マリヤの独唱」もなかなかおもしろいものでした。

次に、配役も子供たちの希望を聞き、話し合いをさせながら決めていきました。宿屋と馬小屋の大道具、羊飼いの連れている羊や博士の持つ贈り物などの小道具なども、分かち合いの時間や集会後に子供たちが作りました。衣装は、お母さんたちが家から端切れやシャツ、カーテン、ふろしきなどを持ち寄って間に合わせました。舞台げいこも念入りに行ないました。

いよいよ12月22日の本番、近所の方々も大勢来てくださり、出席者は全部で70人にもなりました。子供たちはとても大きな声で歌い、主の誕生を一生懸命伝えました。ややもすると、子供たちの演ずる「学芸会」は、かわいらしいしぐさや、あどけない失敗に笑いが起きるものですが、この夜は違っていました。子供たちはまったく失敗をしなかったうえに、集まった人々は幼いしぐさの中に込められ

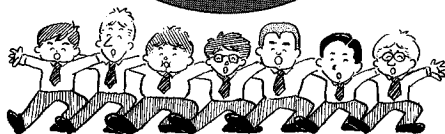
た大切な福音のメッセージを、感動しながら見つめていました。

この夜、涙ぐんでいたのは、決してひとりではありませんでした。小さな兄弟姉妹たちと共にこのミュージカルを準備、上演できたことにより、本当にたくさんの方のことを学んだ夜でした。(レポーター：春日井支部初等協会会長・片岡宏江)

札幌伝道部からのレポート

力強く進む主のみ業

札幌伝道部専任宣教師
伝道部長補佐
野萩 裕弘



真っ白な雪にすっぽりと覆われた、ここ北海道では、今まさにその雪を溶かさんほどの伝道のみたまが燃えています。広大な自然に囲まれたこの札幌伝道部は、日本にある9つの伝道部の中

で一番面積が広く、最も北に位置しているのはご承知のとおりと思いますが、また一番人口の少ない伝道部でもあります。

夏期は比較的涼しく、しのぎやすいのですが、冬は雪が多く、とても自転車は使えません。宣教師は防寒具を身に着け、トレードマークのデイバックを背負い、一日中雪道を歩いて伝道します。寒いときは零下20度、ときには零下30度にまでなる地での戸別訪問は決して容易なものではありません。

そんな冬将軍の中であって、小さな姉妹宣教師が頬を真っ赤にしなが、泣き言も言わず楽しそうに伝道する姿や、勇ましい長老たちが除雪車のごとく雪をかき分けかき分けして突き進む力強い姿は、あたかもヒラマンの2千人の兵士を思い起こさせます。

教会の指導者や予言者が語っているように、確かに伝道の成功の鍵は会員伝道にあります。会員と宣教師が一体となつてこの業を進めるとき、想像以上の成功を収めることができます。

昨年の9月から5カ月間のCIP(サークル・オブ・インフルエンス)プログラムと名付けられた会員リフェラルプログラムでは、12月までに500人以上の会員リフェラル数を記録しています。各監督、支部長をはじめとし、教会員一人一人の方が積極的に伝道活動に参加してくださっているのです。

その顕著な例が釧路支部です。会員と宣教師の歯車がかみ合い、1年間に41人のバプテスマがありました。また、昨年秋、KMTC(釧路宣教師訓練センター)というものが発足し、10名前後の会員が毎朝5時から7時まで専任宣教師顔負けの熱心さで福音の勉強に取り組むなど、その伝道に対する関心は大変なものです。こうしてレッスンプランを学んだ会員が宣教師と一緒に求道者を教えていくのですから、バプテスマが多いのはむしろ当然と言えるかもしれません。

ここ数カ月間、マンズ伝道部長は、新しいレッスンプランをみたまによって教えること、いつでも、どこでも、だれにでもこの福音を分かち合うこと、自分を捨てて働き、このみ業の中で主に従順に

各地のたより



●札幌伝道部で働く宣教師たち。
左下が野萩裕弘長老

なること、時間を正しく管理することを、伝道部長みずからの実践をもって強調されてきました。また、私たちは「人の魂を救う」のであり、バプテスマの数だけに捕らわれすぎてはならないこと、すなわち真の改宗を得るためにはバプテスマを受けた人が活発な状態で教会にとどまらなければなりません。そこでコンバート・リテンション・プログラム（改宗者を維持するプログラム）が設定されています。

しかし、伝道部の規則の変更、次から次へと繰り出す様々なプログラムと、宣教師がそれらの大きな流れに押し流されてしまっただけでは何にもなりません。そこで伝道部長は一人一人が「日の光栄の宣教師になるプログラム」を発表しました。141名の宣教師は主のみに使われる良き道具、清き器となるべく日の光栄の宣教師になることを祈りの中で決意し、そして毎日、信仰に信仰を重ね、努力に努力を重ね、成功に成功を重ねています。

次にあげる例は一致することの大切さと、それがもたらす大きな力、そして天父が私たちの祈りを確かに聞き届けてくださるという証を強めさせられた経験です。

伝道部ではほぼ毎月、ある特定の日は設定し、早朝同じ時間、北海道で働くすべての宣教師がそれぞれのアパートでひざまずき、心を合わせ、ひとつの祈りの輪を作り、同じ目的を持って祈ります。

その日の伝道部の祈りは「準備のできた人々を主が私たちのもとに送ってくださいよう願う」というものでした。さて、この日に一体何が起こったのでしょうか？ たくさんの人々が宣教師に声をかけ、電話をかけ、宣教師アパートのドアを叩いたのです。

先日札幌でバプテスマを受けた姉妹は、以前2、3回宣教師からレッスンを聞いたものの、間もなく宣教師から離れ、その後半年ほど音信不通となっていました。しかし、ある日、宣教師からもらったモルモン経を同じ職場で働く教会員の所に持って行き、もう一度福音を聞きたい旨を伝え、それを機にレッスンが再開されました。

あとでわかったことですが、その日は伝道部の祈りの日で、なぜもう一度レッスンを聞きたい気持ちになったのか尋ねたときに「自分でもわからないのですが、どうしてもその日そうしなければならぬという気持ちになったのです」という答えが返ってきました。

伝道活動の盛んなあるキリスト教会に14年間通い、近々その教会に加入する予定であったある男の人の家に、旭川の宣教師がモルモン経を携えて行きました。宣教師は福音を伝え、監督の証の書かれているそのモルモン経を渡したものの、その数日後には「悔い改めなさい！」という強い言葉とともにモルモン経を突き返されてしまいました。しかし、その祈

りの日、その人は宣教師アパートのドアを叩き、やがて真実の教会の会員となるべく、バプテスマを受けたのはその後しばらくしてからのことでした。

滝川では、あるとき友人から送られ、4年間本棚の中でほこりをかぶっていたモルモン経に昨年の4月頃手を伸ばして以来、半年間に7回読み返した男の人がいました。その人が電話帳で宣教師アパートを調べ、電話をかけたのも、その祈りの日でした。この人もまたバプテスマの水をくぐったのは言うまでもありません。

人が真理へと改宗する奇跡には目を見はるものがあります。函館では90歳になるおじいさんがバプテスマを受けました。また、20数年間、ある宗教団体で活発に活動し、指導者まで務め、さらには10数の宗教教派を論破してきた人が、宣教師から発せられるキリストの純粋な愛と光により、主の前にへりくだりバプテスマの門をくぐりました。釧路で働くある姉妹宣教師は街頭伝道中、全身を大きな手のようなもので「ドン」と押され、よろめき立ち止まったすぐ目の前の人に声をかけました。その見えぬ手は宣教師を使い、その人を改宗にまで導いたのです。

改宗するすべての兄弟姉妹がすんなりと教会に入ったわけではありません。ほとんどの人が什分の一、知恵の言葉、両親の反対、安息日などの問題や障害を持ちながらも努力し、宣教師の信仰、会員の助け、そして神様の導きにより、一つ一つ解決してきたのです。

この力強く進む主のみ業はだれも阻むことができません。たとえ小さな者の口によるとも、この末日に予言者ジョセフ・スミスを通して回復されたイエスキリストの永遠の福音は、すべての人々に宣べ伝えられていきます。

やがていつの日かこの北の地でも選民がそれぞれのシオンに集められ、聖徒たちの準備が整い、王国の基がより確かとなったときに、主ご自身がその「宮居」の鋳入れ式をなさってくださいを願ってやみません。（のはぎ・やすひろ 1959年生まれ、東京北ステーク中部中野ワード部出身）

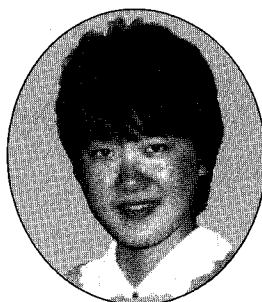
各地のたより



泉谷芙貴子



「一生懸命頑張るからね、ママ」



泉谷美樹子

親 は子供に何を一番望むものでしょうか。私は天のお父様からあずかった子供たちが強い証を持つことができるよう、また主の愛を感じることができるようにと願って育ててまいりました。

子供たちが物心ついたときはすでに教会の中にあり、8歳でバプテスマを受け、親と共に教会に出席していました。子供たちの成長とともに不安もあります。多感な青年期を子供とどのように乗り切ったらよいのか、サタンの誘惑に打ち勝ってくれるだろうか、主の道をまっすぐ歩んでほしい、と親としていろいろな思いがあります。

そのようなとき、主人が突然東京転勤となり、18年間住み慣れた札幌を去ることになりました。母親として娘を札幌に残さねばならないというつらい思いを背負いました。それから、母と娘との文通が始まったのです。次の手紙は「モルモン2世」として育った娘が、自分の証を持てるまでになった様子をつづったものです。

神様の愛が絶えず私たちに注がれていますことを感謝します。

ママへ♡

私は元気です。今、カゼがはやっていますがとても元気です。新しいクラスや先生にもすっかり慣れて楽しい毎日です。(省略)

私の証をひとつ書こうと思います。つい最近まで私は迷っていました……。私の召しはいったい何なのか、成績のこと、将来のこと、いろいろなことがからんで複雑に迷いました。何度もお祈りしまし

た。日曜日の朝から断食をし、ずっと祈り続けました。そして教会に出席し、霊的なことを考えようとするとか何か邪魔をするのです。心が乱れました。ずっと答えが得られないばかりか、霊的な気持ちを持とうとしても何かに邪魔される……。もう答えは得られない……とあきらめかけました。

ステーキ部大会で菊地敏ステーキ部長が最後に「教会の召し」について話されました。

「ふさわしい人だから召しが与えられるのではなく成長するため。」「どんな願いも努力と神様のみこころによれば必ずかなう。」当たり前のことかもしれませんが……。ずっと前から知っていたことかもしれません。でも私また忘れていた……。

そのとき、突然さっきまでの迷いとじましていたものが散らされるようにかき消えた、と思ったら熱い思いがどっと心を満たしました。心臓がどきどきし、体中が証をしたときのように震え、涙があふれました。そして確かに、強く、厳しく、私の心に語りかける声を聞きました。「あなたはまだ何もやっていないではないか!」と。

私は、確かに自分の試しから逃げようとしていたのです。強くそれを指摘されたのです。乗り越えなさい、と。まだ試しは続いていると……。苦しいことがはっきりしている。でもそれが私の召しだどわかった。だから必ずやり遂げられると。……。私の力だけでは無理でしょう。でも召しなら、努力したら神様の力が加わるということ……。

もう終わりの讃美歌、くちびるが震え

て声が出ませんでした。涙があとからあとからあふれ、隣に座っていたり子姉妹がギュッと抱きしめてくれました。ほっとした思いで涙、流せた……。閉会のお祈りが「苦しんだり、悩んでいる人が助けられますように。努力することができますように」という内容でした。とてもうれしかった……。

閉会のあとで、るり子姉妹が話してくれました。平安で安息な時間はこの世にはないと。成長しようと努力しているときに感じる喜びが一番の幸せだと……。地上にきた目的は試しを受けるためであって、苦しみ、強くなり、成長するためなんだと……。だれもが苦しみ、悩むけれど、神様が生きていらっしゃるから乗り越えられることがわかっている。

私は今までいつも神様やたくさんの人たちに助けられてきました。「私に与えてくださったたくさんの才能を、私を必要としているすべての人のために使って、何倍にもして天に帰ります」と、私は神様と約束してきました。

だからこの約束、果たさなければ……。私にできるんだもの。約束したのだから。……。そう、努力すれば神様の助けがあって、きっと目標を達成することができる。……。それは約束だから。

私は決して強い人間でもないし、ひとりで生きてゆけるたくましさや激しさに欠けるけれど、そんな私でも、必要としてくれる人が待ってる。……。私はやらなきゃならないわ。……

もし、この試し、乗り越えられなかったら、神様との約束を破ることになるね。……。だから一生懸命頑張るからね、ママ。

美樹子

(いずみたに・ふきこ 1943年生まれ、町田ステーキ部町田第2ワード部/いずみたに・みきこ 1968年生まれ、札幌西ステーキ部藻岩ワード部)





●高松城跡の埋蔵文化財調査現場

職業と信仰シリーズ㊸

埋蔵文化財発掘に当たって

——主から与えられた才能を伸ばす——

高松ステーク部丸電支部 池内 右典

3年前に、教員から、畑違いの埋蔵文化財発掘調査の仕事に従事するようになりました。

当初は考古学のことはほとんどわからず、暗中模索の毎日で、早く学校現場に復帰したいと、そればかりを願っていました。しかし、主は私たちに、才能は機を逸することなく、伸ばせるときに伸ばすようにと教えられています。

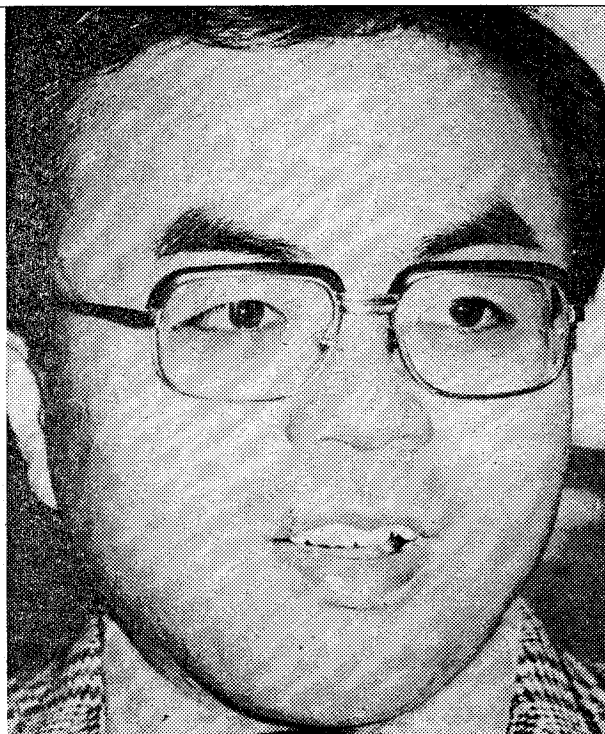
使徒パウロは、私たちがキリストの福音を受け入れることによって、キリストの体となり、各々、人は異なった賜を受け、キリストの体として正しく働くための責任があると言っています。(I コリント12参照)

つまり、私たちは、主が人にお与えになった賜、才能を伸ばしていかなければならないわけです。たとえ、たったひとつの才能であっても、人はそれを伸ばすことを求められています。そうすることにより、主の来るとき、その才能にいくばくかのものを加えて返すことができると教えられています。

「おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。」(マタイ25:29)

最近、この仕事は、主が自分の才能を伸ばすように与えられたものだとして強く感じるようになりました。

3年目の昨年4月からは高松城米蔵丸跡の発掘調査を担当してきました。その結果、築城以前から生駒・松平時代、明治時



高松城跡発掘を指揮 池内 右典さん 32

現場を回り、四月から高松城跡の調査を指揮している。これまでくに史跡に匹敵する目隠し堀跡や天守閣の瓦(かわら)などが出土したが、「もう見つからない」と思っていた



埋蔵文化財の発掘フシシユの中で三年前、丸電市立西中の社会科教諭から、畑違いの県教委文化行政課職員に。善通寺市や三豊郡豊中町の発掘

肌で学んだ歴史

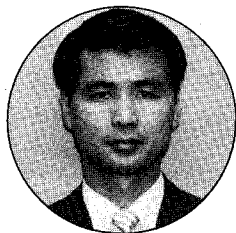
の身震いするほど感激した」と、真っ黒に日焼けした顔をほくほくさせる。
「子供に教えるのが自分の職務。最初は発掘に不安もあったが、しかし持ち前のフアイトで考古学を勉強し直し、今では押しも押されぬ発掘の専門家に。「遺物を通して古代人のぬくもりを感じるようになった」という。教育現場へ戻る日も近いが「いい勉強をさせてもらった。学校へ戻ったら考古学に興味を持つ子供を育てたい」と話し、最後の仕事の報告書づくりに精を出している。
(丸電市中津町一〇八〇)

「読売新聞」昭和六十年十一月五日付

代にわたる高松城の変遷を知るうえで貴重な遺構が多数検出されました。そして、当初の予想をはるかに上回る成果をあげることができました。この間、新聞、テレビなどで何回となく取りあげられ、調査員としての喜びと責任の重要性を自覚させられ、神様の祝福を感じずにはいられませんでした。

間もなく教職に復帰する予定ですが、この経験を多くの生徒たちと分かち、考古学に関心を持たせることができれば、と願っています。(いけうち・あきのり 高松ステーク部高等評議員、1953年生まれ)

各地のたより

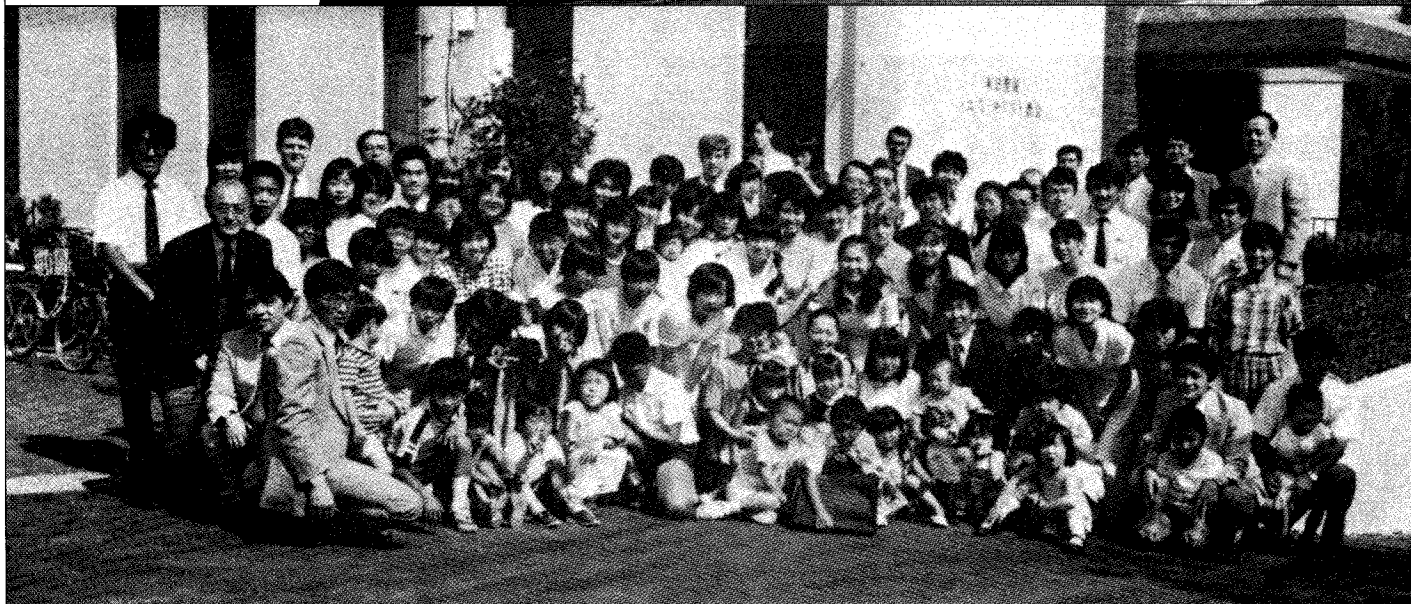


村上正博監督

献堂された東京東ステーキ部 鎌ヶ谷ワード部教会堂

敷地面積：1,276.42㎡
建築面積：228.40㎡
延床面積：440.00㎡

●教会所在地：
千葉県鎌ヶ谷市富岡
2-12-42
TEL.0474(44)3885



待ちに待った鎌ヶ谷ワード部の教会堂が1985年7月28日に完成し、同日、神崎良太郎ステーキ部長の聖なる祈りにより、献堂式が挙行されました。

当ワード部は、1978年5月、船橋支部（現在、八千代ワード部）の附属支部として誕生しました。（初代支部長、池田勇

作兄弟）当時は、5－6家族の20名弱の会員たちで始められ、以後数人のバプテスマがあったものの、主に転入会員の増加（鎌ヶ谷市は人口約8万人弱、千葉県船橋市と松戸市の中間に位置し、田園風景が見られるものの、近年ベッド・タウン化している）により、聖餐会出席人数

が約40人になった1979年10月に独立支部となりました。（2代目支部長、萱嶋太郎兄弟）

さらに伝道によるバプテスマや転入会員が続き、工務店作業所の2階を借りての集会所は手狭となり、1980年代になると、教会堂建設のための用地探しが始ま

各地のたより

りました。

ところが、一時ユニットの再編成の話が持ちあがり、再び船橋支部と共同で建物を購入する計画が示され、支部存亡の危機となりました。しかし、この話は神崎ステーキ部長の決断（主の恵み）により、それぞれ独自で土地を購入して良いと決まりました。

現在の土地購入に当たっては、ゴルフ場を見下ろす斜面で雑木林となっており、数多くの困難や試しがありましたが、当時の萱嶋支部長の「まさしくこの場所に教会を建てるべきである」との強い確

信・靈感により、1983年11月購入が決定されました。（3代目支部長、村上正博兄弟）

1984年^{くわ}鉄入れ式、1985年7月完成、献堂式。まる1年の建築期間は、基礎工事に相当の期間を費やし、遅々として進まぬ工事に、我々の信仰を試されたかのようでした。

しかし、完成した今、教会堂はゴルフ場側から見ると、真に強大なコンクリートのどっしりした基礎の上に、心清き聖徒たちの集まる「主の家」としてさんざんと輝いているのであります。

この間、1985年3月にはワード部になり（船橋支部は1984年八千代ワード部となる）、聖餐会出席人数も100名を超えるようになりました。岡本・井上両地区代表のホームワードでもあり、彼らの模範を手本として伝道活動も活発になり、1985年には25人のバプテスマがありました。

これまで信仰を表わしてくださいました会員一人一人、また働いてくださいました宣教師一人一人に心から感謝し、これからもますます、主のみ業がこの地で進展するよう共に頑張っていきたいと思えます。（鎌ヶ谷ワード部監督・村上正博）



重松征史監督

敷地面積：661㎡

建築面積：236.63㎡

延床面積：469.48㎡

●教会所在地：
茨城県稲敷郡牛久町字牛
久五反田3318-35
TEL.0298(74)1540



東京東ステーキ部牛久ワード部 教会堂献堂される

筑 波学園都市は、牛久ワード部のゾーン内にある科学文化都市です。ご承知のように、そこでは昨年「EXPO '85」が開催されました。その開催期間中に、牛久は土浦支部を母体としてワード部に昇格し、その後すぐに牛久駅近くの緑の多い閑静な地に、新しい教会堂を神様からいただきました。

牛久の教会堂は日本で初めて、室内はもちろん廊下も絨毯が敷かれています。それだけに雨の日は神経を使いますが、

管理人さんの努力のお陰で美しい教会堂が維持されており、そのことが道行く人々に清潔な良い印象を与えています。

昨年9月29日、神崎良太郎ステーキ部長によって献堂されましたが、献堂式が行なわれるまでの1カ月近い間、私たちは、カナンを目指した古代イスラエル人、あるいはリーハイの一行のごとく放浪の民になっていました。

土浦で借りていた貸しビルの契約上、教会堂の引き渡しよりも1カ月前に、ど

うしてもそこを立ち退かなければなりませんでした。ところが、どの公共の集会場も宗教活動のためには場所を提供してくれません。それなら教会という名を伏せて借りては……という意見も出ましたが、「安息日に主のみ名を隠すことはできない」との重松征史監督の一声で、再び皆がいろいろと努力して集会場を探すことになりました。

あれほど決まらなかった集会場も神権役員が各方面に当たり、説得のかがあ

各地のたより

って、あっという間に4箇所の会場が決まり、毎週会場を変えて使用しました。
古代イスラエル人やリーハイの一行が

経験したほどではありませんが、苦勞の末、やっと新しい牛久の教会堂にたどり着くことができ、喜びもひとしおです。

(牛久ワード部第二副監督・佐藤昭信)



遠い記憶

ひかりを求めて
素直に 天にむかって伸びてゆく
花をみていると
ふっと 思うことがあるのです

ことばをもたない花達は
すべての記憶を なくさないまま
この地上に
送られてきたのかもしれない……、と

黙して咲く
花から伝わる
ことばを越えた なにかに
はげまされるのは
花達が 大切なことを
忘れないで いるからなのでしょう

精一杯 咲いたなら
必ず また
神様のもとへ帰れるという約束を……
花は きつと
遠い記憶の中にもっているのです



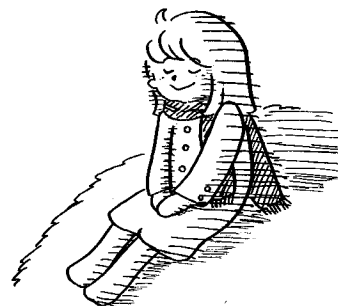
山梨 芳枝

目を閉じて

両手で 受けとめた
わずかな 冬の日ざしを
手のひらで はずませる

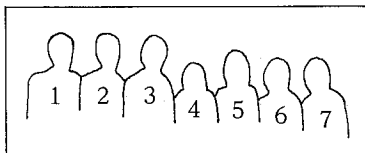
大切な そのぬくもりの重さは
目を閉じると よくわかる
みえないものを
信じようと するとき
人は 目を閉じて
しずかに 祈るものでしょう

(やまなし・よしえ 1957年生まれ、東京西
ステーキ部八王子ワード部系図相談員)



各地のたより

12月に召された JMTC 第79期生 7名の名簿



S: スターキ部, W: ワード部
B: 支部, M: 伝道部



〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉	〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 嵐 晴 豊 彦	名古屋S/豊橋W	福岡伝道部	5. 荒 木 敬 子	福岡M/八代B	岡山伝道部
2. 井 幡 康 次	東京南S/渋谷W	名古屋伝道部	6. 宮 城 圭 子	大阪北S/花屋敷W	仙台伝道部
3. 福 原 明	名古屋S/豊橋W	福岡伝道部	7. 種 市 敬 子	仙台M/八戸B	東京北伝道部
4. 谷 川 亜 紀	福岡M/大分B	神戸伝道部			

編集室から

▶「聖徒の道」の原稿を常時募集しています。各地のたよりには北は稚内から南は沖縄までの幅広い話題を採りあげたく思いますので、広報ディレクターあるいは各種催し物を担当する高等評議員/地方部評議員の方はレポーターを手配して下さるようお願いいたします。

▶5月号掲載分の締切は3月10日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)を記入してください。

▶あて先: 〒106東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264



渋谷ブックセンターから

「あなたからあなたの先祖へ」 (増補改訂版) A4変 118頁 600円

全面的に改訂が加えられ、系図を探索し、「家族の記録」を系図サービスセンターに提出するに必要な段階が詳しく例示されている。さらにこれまで別途に出版されていた「記録提出の手引き」が巻末に付加された。正しい記録を提出するための必携の書。

モルモン経の2冊目は ソフトカバーを

昨年9月末に出版されたソフトカバーのモルモン経は、ハードカバーと同じサイズであるが、軽くて開きやすく、電車やバスの中でも片手で読める。なお、定価はハードカバーと同じ450円。



渋谷ブックセンターの営業時間は下記のとおりです。

- 火曜日～金曜日(10:00am～6:30pm) ●土曜日、祭日(10:00am～4:30pm)
 - 日・月曜日はお休み。なお、祭日が月曜日に重なる場合は閉店させていただきます。
- 皆様のご来店をお待ちしています。

●おわび●2月号で表紙説明「新しく出版された讃美歌集(英文)の紹介」が抜けていました。おわびします。

復活祭の

奇跡を見ました

ジェニー・ウルジー・バーズガード

毎年復活祭の季節になると、救い主が地上での生涯を過ごされた聖地に、人々は思いをはせます。ある年に、私は復活祭と復活の奇跡を自分の目で確かめたいと思い、聖地を訪れました。そこで得たものはたくさんありましたが、復活祭の意義を知るのに、世界を旅する必要などないのだということを知ったのです。帰宅した私は、自分の探しているものを、自分の家の中に見つけました。

園の墓をイエスの埋葬場所と推定する考古学者たちがいます。言い伝えや聖書とも矛盾しません。ハロルド・B・リー大管長はここを訪れたときに、この聖なる場所の神聖な確認とも受け止められる言葉を残しました。「私たちがそこに立ったとき、何かに心打たれる思いがした。これは至高の聖き場所である、と。そして私たちは、そこで起きた劇的な情景を目のあたりに思い描いた。」

園の墓は、旧エルサレムの混雑したにぎやかな市場や店からは遠い、ひっそりとした庭の中にあります。旧市街への主要な入口であるダマスカスの門を抜け出て、道路を渡り、歩道を行くと、壁に囲まれた園に着きます。

そこは静寂な所です。古木が頭上にアーチを作り、小枝は昼下がりの風にそよぎ、色とりどりの花が小道を縁どります。その庭の一角に、岩をくりぬいた墓があ

ります。その前にかつては大きな石が転がされていたのです。溝のような細長いくぼみが今も跡を残しています。そこは、イスラエル中で最も美しい場所に数えられるでしょう。

ところが、園の裏手の丘に登って、イエスが十字架にかけられたという「されこうべ」(ヨハネ19:17参照)と呼ばれたゴルゴダを望むと、自動車の騒音やバスの運転手の怒鳴り声が聞こえ、排気ガスのおいが漂ってきます。いきなり出くわしたこの相違に、私は興ざめしてしまいました。

園へ引き返すと、ベンチに腰を下ろして考えました。西の地平線へ沈み始めた太陽が、園の木々や落ち葉をやわらかく照らしています。

私は、辺りに移りゆく季節の気配を感じました。地面に落ちてゆく木の葉はやがて朽ち、地に同化して、そこから翌春新しい命が生まれます。木々は寒々と裸にして、冬はやって来ます。しかし、そのあと春が来ます。木の芽は再び姿を見せます。

この園の中の命の循環は、円です。したがって終わりがありません。私はそのことに気がつきました。季節は変化をもたらしますが、どの季節も生き、死に、また生きていくものの通り道なのです。そしてそのとき、自分もまた、その同じ

道をたどるものであることに気づきました。

太陽は沈んでいきます。けれど翌日になれば新しい一日の始まりを見るのです。日はまた東の空に昇り、夜の闇は昼の光に変わります。

不意に新しい思いが浮かんできました。自分がイスラエルの園の墓にしようと、あるいは家で夕日を見てしようと、また





はどこかで落ち葉を見つめていようと、復活祭の奇跡は身の回りのどこにでも、毎日の自分の中にさえ見いだすことができるのだと。本当に世界全部が聖地です。あかしびとイエスの復活の証人です。

その日の夕暮れ、園の墓から帰る私は、イスラエルを訪れた大勢の人たちも知ったであろう同じことを知ったのでした。場所というものが霊的な経験を与えるも

のでも、奪うものでもないということ。神聖な感情がそこで自然にわきあがるわけではありません。私たちに用意さえあれば、どこでも、いつでもその気持ちを抱くことができます。ですから、私の家族は、あの聖い園のベンチに静かに座ってイースターの朝を過ごしたと同じように、家にいても復活祭のすばらしさを経験できるでしょう。

かの地で起きた出来事の意義を知るのに、イスラエルへ行く必要はありません。復活祭の奇跡は、毎日私たちの周りに、そして一番すばらしいことには、自分自身の中にあるのです。

*ジェニン・ウルジー・バースガード：5人の子の母。ユタ州スパニッシュ・フォークワード部

共に歩むふたり



ウェイン・B・リン

午後からずっと強い風が吹いていました。閉めきった私の車の中には、窓のすき間から入り込んだアリゾナ砂漠の赤土が、あちこちにうず高く積もっていました。目的地まであと少しというくぼみの多いでこぼこ道を、私は車で走っていました。太陽は駆け足で沈みかけています。沈む前のまぶしい輝きの中で、いくつもの大きく連なった雲の陰からもれる光が、すぐそばの平坦な丘をくっきりと映し出していました。

息を飲む美しさです。空は、ピンクとオレンジ、そしてこはく色のやわらかなパステル風の色合を見せており、雲間から差し込む幾筋もの銀色の光は、空から見事な道を作って地面へと降り注いでい

ました。私は、いつもこれほどまでに違った光景を繰り広げる砂漠の美しさに、驚嘆しないことはありませんでした。

道端にある小さなインディアンの家、その向こうの舗装されていない曲がりくねった道に目をやると、そこに末日聖徒の教会が見えてきました。何と礼拝堂に似つかわしくない場所なのでしょうか。しかし、それは確かに教会でした。そしてそこから少し離れた所には、「宣教師ハウス」ならぬ宣教師用トレーラーがあり、そのそばに長老たち専用の「チディ」（トラック）が止めてありました。トレーラーの中には明かりがともっていて、中に長老たちがいることを伝えていました。

トレーラーのそばに車を止めて外に出

ると、お腹をすかせた犬が、黄色い歯を見せてうなつたかと思うと今度はしっぽを振りながら、トレーラーの下から出て来ました。私は笑みを浮かべると、こうつぶやきました。「伝道部長を迎えるのに複雑な気持ちになってもおかしいことはないさ。トレーラーの中がきれいになっていなかったり、伝道がうまくいっていなかったら、長老たちだって歓待できないからね。」

と、そのとき、ネイラー長老とジェンセン長老があいさつをしながら出て来て、温かく迎えてくれたのです。ふたりはすぐに伝道の状況を話し始めました。そしてネイラー長老がこう言ったのです。「伝道部長、ぜひ聞いていただきたいことが

あります。実はアモス・スィンガーという老人のことなんです。彼にはなかなか頭のいい孫がふたりいて、一緒に住んでいるんですが、彼はその孫たちにレッスンをして、ぜひ教会に導いてやってくれと言うんです。なんとか教会員になって、祝福を受けさせてほしいと言うんですよ。

それで先週の土曜日に初めて彼らにレッスンをしたんです。おじいさんも一緒にレッスンを聞いてくれました。私たちは神様やイエス様のこと、聖霊のことや祈りのことについていろいろ話したのですが、レッスが終わってから、私たちはびっくりするような話を聞いたんです。彼が言っていたような話は今までにも聞いたことはあったのですが、自分が実際に経験するとは思ひもありませんでした。79歳の彼は、15くらいのときから、自分の部族のまじない師としての修行を積んできていました。ひいおじいさんから教えを受けてきていた彼は、はるか昔のナバホインディアンの信仰に対して、信じられないような記憶を持っていたんです。その昔からの言い伝えを知っている人は、今ではあまりいないようです。

彼は、どのようにしていろいろな宗教組織を学んだかも教えてくれました。彼は、「モルモンの教え」以外は何れもみな間違っていると言います。そして、私たちの教えていることは、今でこそナバホの宗教も変わっているが、昔のナバホ族の教えと同じだとも言いました。そして「永遠の生命」のことや、近い将来地球が火によって焼かれ、更新されること、そしてそこが幸福な場所となり、義人にとっては何の悩みもない所となるということ、また、キリストが再び来られるときには、天使の歌声に囲まれ、栄光のうちに下って来られるというようなことまで話してくれたんです。そして彼はひいおじいさんから、その天使たちの歌う歌というものを教わっていて、その一部分を歌ってくれました。そして彼の知る限りでは、その歌を知っている人は、今この世にふたりだけだと言います。彼はまた、「ahix kee naa'aashii(共に歩くふたり)」という伝説を持ち出し、ふたりの人が自分の民に福音を伝えてくれることを語りました。そしてこう言ったのです。

『あなたたちは、まさしくこの話の人たちだ』と。』

話を終えたネイラー長老の目は、涙でぬれていました。

「君たちも知っていると思うが……」私はこう切り出しました。「それらのことはみな、モルモン経の中で予言されているんだよ。君たちのいるこの場所で、このように聖句が成就するっていうのはどんな気持ちかな。」

ジェンセン長老が言いました。「伝道に出ていなかったら、こういうことは経験できなかったわけですね。」

「そうだよ。」私は答えました。「ふたりずつ組んでこのほこりっほい道を歩いて来た大勢の長老たちのことを考えてごらん。この礼拝堂がここに立っているのは、彼らのお陰なんだよ。それに、会員たちの間でこの支部をワード部にする話や、レーマン人のステーク部設立の話が出ているのは、君たちや、君たちと同じ業に働く者たちのお陰なんだ。」

先週一緒にルカチュカイまで歩いて行ったという、君たちと同じ長老たちがいたんだが、彼らのことを少し話してあげよう。

彼らのことはステーク部大会で知ったんだよ。その日の朝の大会の話者の中に、顔立ちのきりっとした、ナバホの少年がいたんだ。人前で話すのが初めてらしく、おびえた様子でね。それでも信仰と強い証に支えられているようだった。つい数カ月前まで、彼は教会のことを何ひとつ知らなかったんだよ。

ふたりの若い長老が、ひとりの男とその孫にレッスンをするために、ぬかるみにわだちのついた道をトラックで行ける所まで行き、そこから残りの13キロほどを、泥と雪をかき分けながらふたりで共に歩いて行ったんだ。彼らの献身的な働きによって、今ではバプテスマを受け、愛と証に満たされたその若者が聴衆に向かって話していたというわけなんだ。彼もやがては伝道に出て、同僚と共に遠くの田舎道や大通りを歩くことになるんだろうね。そして主を求める人々の家に、心に入っていくんだろう。伝道っていうのは実にすばらしい冒険だよ。」

「伝道部長、私は干し草のてっぺんから

降りるのが大冒険のように思ったことがあるんですが、ここに着いたばかりの頃は、インディアン保留地をあちこち行くことが、もう私たちにとっては大冒険でしたよ。新しい言葉や土地、人、習慣になじめるかどうか心配だったんですけど、今では彼らを楽しめるようになったし、ほかの何にも代えがたい経験をしていると思っています。」

「君たちはケンプター長老を知っているだろ？」私は尋ねました。「この間彼から手紙をもらったんだが、その中で彼は『おもしろい経験をした』と言ってこう書いてきたんだ。」

「家庭の夕べが終わって、おいとましようとしていたときでした。その家の娘さんがトラックの所までやって来て、私にやぎが欲しいかと聞いたのです。私はやぎは小さすぎて食用にはならないし、飼う場所もないと言いました。伝道部長は、やぎをくれるということがどういうことかおわかりでしょうか。あとになってわかったのですが、それは若い女性の結婚の申し込みだったのです。それがわかったときは、びっくりしてしまいました。でも心配はいりません。私にはそれほど魅力がありませんから。」

私の言いたい大きな冒険とはどういうことかわかるかね。くれぐれもやぎを受けとったりしないよう気をつけてほしいんだよ。

反対に今度は田舎やインディアン保留地から大都市に伝道に出ている長老たちもいるんだが、彼らにはチャレンジの多いおもしろい経験がいっぱいあるようだ。君たちはデスチニー長老を知っているかな。」

「ええ、知っています。黒い縮れ毛に黒い目をしたナバホ出身の長老ですね。どうしたらあんなすてきな笑顔になれるのか、不思議に思っていたんです。いい長老でした。」

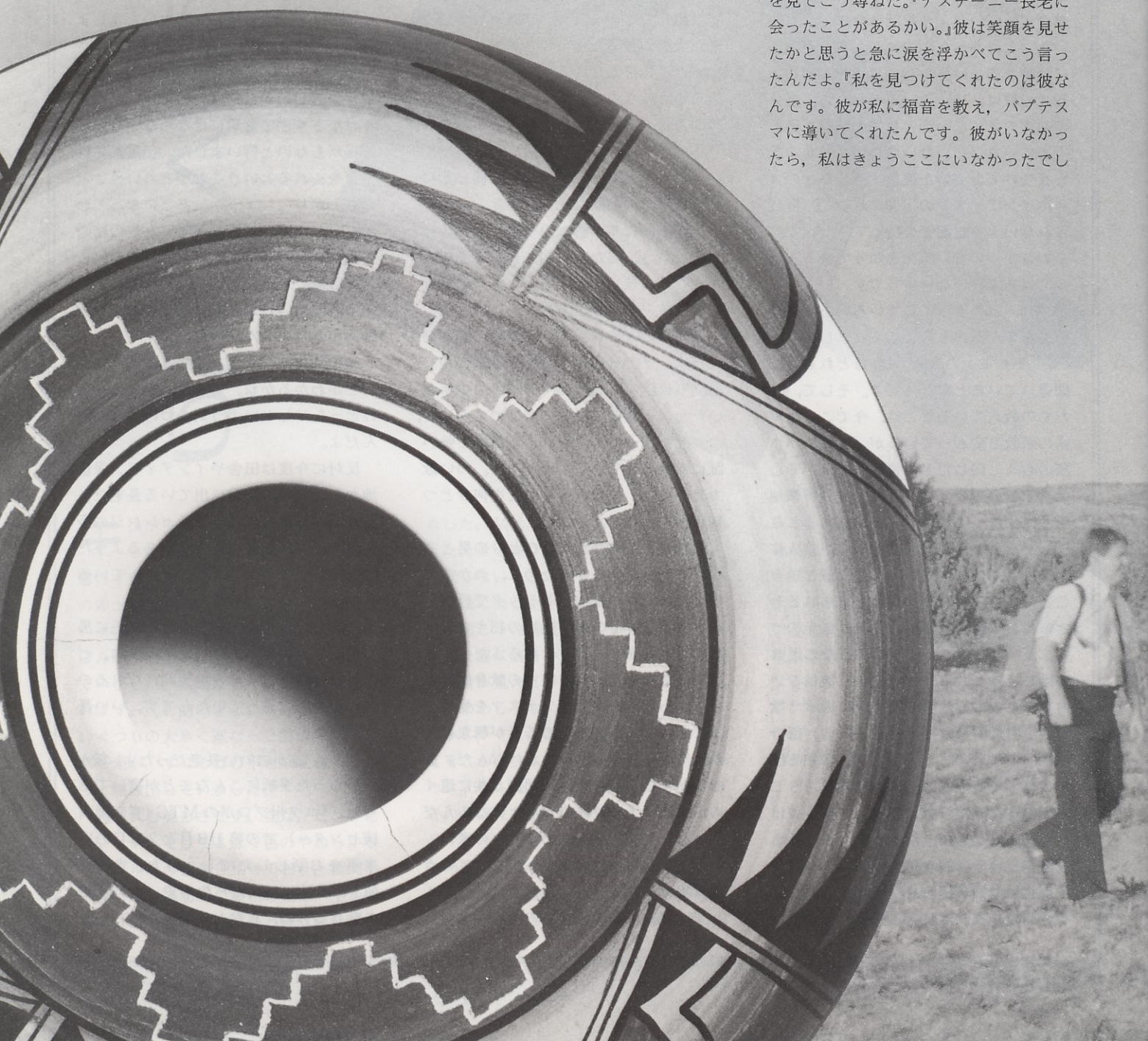
「そう、確かにいい長老だったよ。彼からもらった手紙にこんなことが書いてあった。『ユタ州プロボのMTC(宣教師訓練センター)での第1日目と2日目の出来事をお話したでしょうか。当時、MTCに行った人たちの中で、ナバホ語を話せるのは、私ひとりだったのです。』

第1日目は、無事に部屋も見つかり、宣教師クラスにも出ることができました。ところが2日目に、私は寝坊してしまっただけです。ほかの人たちはもうすでに宣教師クラスに行っちゃってしまっていました。私は急いでシャワーを浴び、クラスに向かいました。ところがクラスが見つからないのです。あちこち廊下を歩きまわり、建物中を捜しまわりましたが、自分のクラスを見つけられなかったのです。あきらめて、部屋に帰ることにし、同僚が帰って来るまでそこで待っていることにしました。

私は部屋に引き返そうとしたのですが、今度は自分の部屋がどこかわからなくなってしまいました。とにかくそばの建物に入ってみました。どうしても自分の部屋が見つからないのです。するとそこへ女の人が大勢入ってくるではありませんか。とっさに私は女性だけの建物に間違っただけだと思い込みました。私はそこを大急ぎで抜け出しました。すっかり迷ってしまった私はどうしたらいいかわからず、ちょうど近くにあったブックストア（MTCの中で教材を販売している所）に足を向けました。するとその店でばったり同僚に出会ったのです。そのと

きのうれしかったこと！今までのことを全部話すと、同僚は笑い転げてしまいました。それも今では懐かしい思い出です。先週の土曜日にバプテスマがありました。ほかにも予定している人が何人かいます。もっと長い手紙を書くつもりでしたが、種切れになってしまいました。きょうはここまでにして伝道に励みたいと思います。どうぞ楽しい一日でありますように。すべてに感謝しています。D長老より。』

先週、新しく来た長老たちを彼らの任地に連れて行きながら、この手紙のことを話して聞かせたんだ。そして助手席に座っていたボビー・ヤッツィー長老の方を見てこう尋ねた。『デスチーニー長老に会ったことがあるかい。』彼は笑顔を見せたかと思うと急に涙を浮かべてこう言ったんだよ。『私を見つけてくれたのは彼なんです。彼が私に福音を教え、バプテスマに導いてくれたんです。彼がいなかったら、私はきょうここにいなかったでし



よう。家族の中で改宗したのは私だけなんです。』

彼話を聞いて、とても感動してしまっただ。2年前まで、彼は教会のことを知らなかったわけだからね。それが今、こうして隣に座っている。目の澄んだ、顔立ちの美しい聡明な青年が今伝道に出て、自分の民に証を分かち与えようとしている……実に感激したよ。彼は伝道に出てすぐに最初のバプテスマを経験したんだ。彼の祖父母にバプテスマを施したんだよ。その後も彼はたくさんの人々をバプテスマに導いた。」

話を終えて、私はブリーフケースに物を入れながら帰り支度を始めました。長老たちにはレッスンの約束があり、私にはもう一カ所訪問の予定があったのです。

ハックス姉妹、マッソン姉妹たちの働く町に入った頃には、暗やみが辺りを覆っていました。時間的に大分遅くなっていたはいましたが、翌朝早く帰らなければ

ならないことを思い、やはりその日のうちに寄ることにしました。アパートには明かりがついていて、中に姉妹たちがいることがすぐにわかりました。温かい歓迎を受けるや、姉妹たちの方からこう切り出してきたのです。

「伝道部長、今夜何があったと思います？」

「さあ……」

「ワード部の伝道主任の様子がこの一週間ずっとおかしかったんです。私たちに頼み事は一切せず、ただ今夜教会の集会に来るようにと命令的に言うんです。いらだちを抑えて、とにかく何が起こるのかと行ってみました。するとだれも乗っていない車が数台止まっていました。教会の中に入っていくと明かりがついていて、廊下の向こうの部屋では人声がしていました。私たちがノックすると、中が急に静まり返ってドアが大きく開いたんです。

部屋には大勢人が集まっていました。一番前の列には、私たちがレッスンを担当してきた家族が、輝くような笑顔を見せてこちらを向いて座っていたんです。しかも全員白いバプテスマの服を着て……。」

声が詰まって話せなくなった姉妹たちは、涙を浮かべながら私にほほえみかけたのです。

「すべての町……へ、ふたりずつ……おつかわしにな（り）……彼らに言われた、『収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。』」（ルカ10：1-2）

「共に歩くふたり」の喜びを知りながら、また伝道が「すばらしい冒険」であることを知りながら、伝道への召しを拒む若者はいるでしょうか。





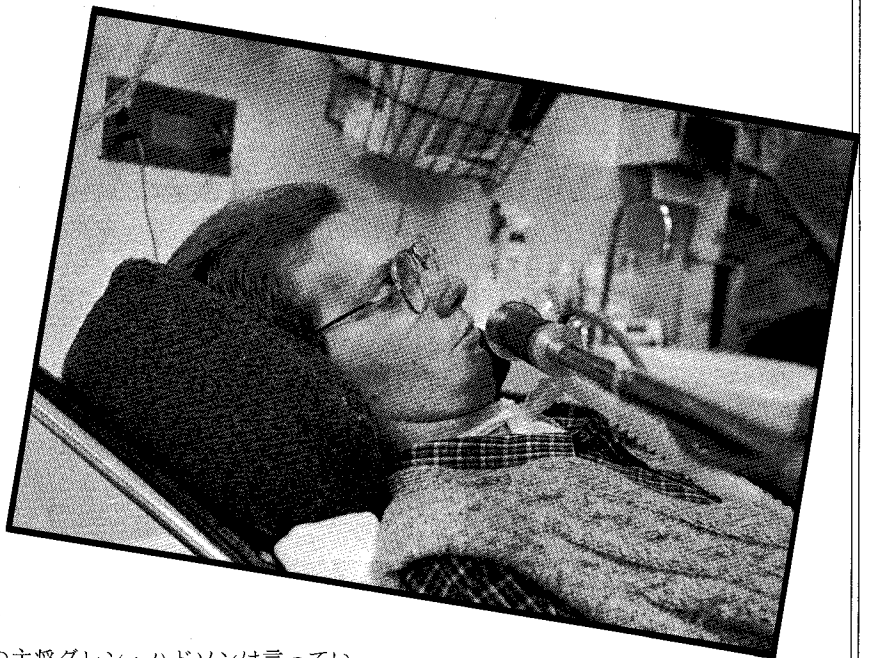
家族や友人、教会員の愛と援助に
支えられて、(母親と一緒に)シー・
ピーターソンは、みずからを適応
させ、決して人生の喜びを見失う
ことはありません。



シー・ピーターソン： 模範的で、しかもユニークな 末日聖徒

ジーニー・タカハシ

カナダ人のシー・ピーターソンは、ベンジャミン王が語った「主が負わせたもうすべてのことに喜んで」（モーサヤ3：19）従うのである。



カナダのアルバータ州エドモントンに住む、フランク・シーデル（シー）・ピーターソンは、模範的な末日聖徒です。

勉学にいそしむ傍ら、彼はインスティテュートや教会の集会にも出席しています。またホームティーチングをこなしながら、野球の試合やコンサート、映画などにも出かけて行きます。茶色の髪に青い目の彼は、2メートルの長身ながら非常に謙遜な人です。彼はまたワード部のソフトボールチームのコーチでもあります。どこから見ても模範的な人です。しかし模範的ではありませんが、彼をおもしろ味のない平凡な人と非難する人はだれもいません。人に勇気を与え、援助の手を差し伸べるという点では、彼はだれもが認めるスーパースターなのです。彼の才能はどれも人とかかわりがあります。彼自身も決してその才能を隠そうとはしません。「シーは、実にすばらしい影響力を持つ人です。」ラス・ブレイリーはこう語っています。「ホームティーチングの同僚として、彼は非常に信頼のおける人です。ただ、彼のお母さんがいつも一緒について来るというやり方に慣れるのには苦労しました。」

「そうなんです。私にもラスの気持ちが良くわかります。」ソフトボールの男子チ

ームの主将グレン・ハドソンは言っています。「シーがはじめて私たちのコーチになったとき、いつもそばにお母さんがいるので、どうも奇妙な感じがしたものです。」

シーが母親に頼り切りというわけではないのですが、必ずだれかが（普通は母親のアニタ・ベギンマンが）常に付き添っています。というのも、彼は1975年3月1日に起こった鉄棒からの転落事故以来、運動機能がまったく麻痺してしまっているからです。彼にできることは、見ること、聞くこと、考えること、唇の動きで言葉を伝えること、そしてほほえむことぐらいなのです。

事故に遭う前のシーは、十代の普通の末日聖徒の少年でした。6人兄弟の長男であった17歳の彼は、学校の勉強よりもスポーツを愛し、ピアノを弾き、弟や妹たちをそして時には母親をからかい、手をやかせる普通の少年だったのです。彼には、19歳になったらすぐに伝道に出るというひとつの大きな目標がありました。

そのシーの健康な体が、一瞬にして動

かなくなってしまったのです。彼は運動機能をすべて失い、呼吸することも話すことも、食べることもできなくなってしまいました。そのうえ、一日中生命維持装置を付けたままという状態が続いたのです。

突然障害を背負ってしまった人は、普通そのような状態を受け入れられるようになるまで、否定的になったり、腹を立てたり、いろいろ苦しむものです。しかし、シーを担当した医師たちは、彼が怒りをぶつけることも気落ちすることなく、さらには絶望感や恐怖感すら抱かなかったことに驚かされたのでした。

ところが、シーは肺炎を併発してしまいました。母親は、シーの前の監督であり良き友でもあるロバート・S・パターソンに祝福を依頼しました。パターソン兄弟は祝福の中でこう言ったのです。「あなたが事故に遭ったことには大きな意味があるのです。あなたは天父のみ手にあって、現在神を知らない人々に神のことを

知らせる手だてとなるでしょう。これがあなたに与えられた使命です。あなたはこの世に来る前に、その使命を受け入れたのです。その使命を立派に果たすならば、あなたは永遠にわたってそのことを天父に感謝するでしょう。」

シーの母親もまた、主の愛を証として経験しています。シーは当時を思い返してこう語っています。「母が私に、もし二度と歩くことも、話すことも、ピアノを弾くことも、スポーツをすることもできなくなったらどうするかと尋ねたことがあります。それは私自身ずっと思ってきたことでした。私はこう答えたのです。

『大丈夫さ。できるときに十分やってきたんだから。ほかにできることを考えるよ。』

母が話してくれたのですが、私が事故に遭った次の日、母はベッドに座り、泣きながらこう言ったそうです。『天のお父様、どうして私の息子がこんなことになるかなければならないのですか。』するといろいろな思いが母の心を満たしたということです。母はそれが聖霊の導きであると感じたので、私の机の上にあった鉛筆と紙をとって、そこに心に浮かんだことを書き記したのです。それにはこう書かれていました。『この世は、神になるための訓練の場です。大切なのは私たちにふりかかる試練にどう対処するか、それらを生活にどう生かすかということです。試練を成長のためのひとつの手だてと考えれば、どんなことでも私たちの力となるのです。この世は、天父と再び共に住むための準備の場であり、日の栄の王国でのチャレンジや大いなる責任にふさわしくなれるよう、霊において、性格において、強さにおいて成長する場です。シーの生涯の中でこの時期は、新しい経験を積むチャレンジに富んだすばらしいものとなるのです。また彼の持っている才能はどれひとつとして失われることはなく、今はただそれらを傍らに置いて、別の才能を伸ばすときなのです。』

何カ月かが経った頃、シーは動けないというだけで、受け身の生活に甘んじて

はいけないと思い始めました。彼にはまだ人に与えるものがたくさん残されていました。彼は、人からの援助を愛と感謝の心で受けることも、人に「与える」ひとつの方法であることを学んだのです。

彼は実に多くの人々から愛を受けてきました。そのいくつかをあげてみましょう。まず、母親が毎日病室を訪れ、何時間も共に過ごしてくれたこと、家族の皆が愛を示し、支えてくれたこと、病院の医師や看護婦が手厚く看護してくれたこと、彼の所属するステーク部の初等協会の子供たちが2千ドルもの資金を集め、車椅子をバンに乗せるときに使う水圧リフトを購入してくれたこと、エドモントンのワード部独身成人がミュージカルコメディを上演して見せてくれたこと、彼の4人の義理の姉妹たちがミュージカルを演じてパソコンの購入資金を調達してくれたこと、そして地元のラジオ局に勤めるニュースレポーターのボブ・レイトン兄弟が、シーの生活を2部にわたるドキュメンタリーとして制作してくれたこと、ドキュメンタリーは一度しか放送しない方針の局が、シー・ピーターソンへの反響の大きさに何度か再放送したこと、そしてついには、そのドキュメンタリーのサウンドトラックに、一連のスライドが組み合わされて耳で聞くだけでなく目でも見えるようになったこと、レイトン兄弟がそれをファイヤサイドや学校、地域団体に何度も携えて行ったことなど、実に様々です。視聴者から寄せられた手紙の多くは、学生からのものですが、これは、シーが確かに主の器となって人々に神のことを伝えていることを物語っています。ある少女はこう書いています。「あなたの信仰と、事故を直視し、受け入れている態度は、私にも信仰を持つ気持ちを起こさせてくれました。」

しかし、シーの受けたものは、最初は何れもがみな歓迎できるものばかりではありませんでした。1977年のある日、ドゥエン・シンプソンという若者がシーの病室にやって来るなり、テレビを消してこう言ったのです。

「シー、君は一体何をしているんだ。どうしてテレビなんかで暇をつぶしているんだ。君は頭がやられたわけじゃないんだぞ。どうして頭を使おうとしないんだ。」

シーは驚きました。これには母親も憤慨してしまいました。しかしドゥエンは続けたのです。「シー、ぼくは自分にできることはどんなことでもして君を助けようと思って、ここに来ているんだ。」それから彼は、自分がシーの家庭教師としての役目を受けてきたことを話したのです。

それ以来、シーの生活は劇的とも言えるほど大きく変わりました。「ドゥエンは、私にとって、今までの生活を改めるために必要な人だったのです。私はそれまで、自分にできることなどないと思っていたので、何もしていなかったのです。」

そのときからシーは、高等学校過程を修める努力を始めたのです。今彼は、大学に入り、社会事業学の学位をとることを目指しています。

しかし、このような障害を持った人はどのようにして勉強をするのでしょうか。彼の場合はカセットを聞いたり、家庭教師の話に耳を傾けたりしています。また家庭教師が彼にいろいろな質問をし、それにシーが「口」で答えるという方法をとっています。しかし、シーは声を出すことができないので、家庭教師が読唇し、答えを書き出して、それを通信教育学校に送り、採点してもらうようにしています。これは大変時間のかかる、もどかしい勉強法ですが、シーは、冗談を交じえながらこう言っています。「今までにないいい成績がとれていますよ。」こうしてシーは、丁寧に「受ける」ことを学びながら、同時に無私の心で人々に与えることも学んでいるのです。彼はいろいろな障害や困難を抱えて苦しんでいる人々、悩んでいる人々の良き相談相手となってきました。彼に相談した人たちはみな、勇気を得て帰っていくのです。

シーは相手の気持ちをくみ取り、状況をよく見ながら考える人です。こうして



野球チームのコーチ以外にも、シー・ピーターソンはワード部の遠足に参加したり、ホームティーチャーの訪問を受けたり、母親に声の代わりになってもらいながら、ホームティーチングをしたりしています。



人々に手を差し伸べ、教会に導き、再活発化させる大きな力となってきました。シーのいた病院のある看護婦はこう回想します。「私は朝方3時頃にシーと話していて、はじめて教会のことを聞きました。彼は、私がこれまでずっと抱いてきたいろいろな思いをはっきりさせてくれました。そのあとで彼は私に、宣教師の話を聞いてみる気はないか尋ねたのです。私はすぐに返事をし、1983年8月にバプテスマを受けました。」

デビッド・マクタビッシは、シーから影響を受けた数多くの人のひとりです。

「不活発だった私が教会に戻って来たばかりの頃は、シーに対してあまり良い気持ちを持っていませんでした。でも彼の模範的なまでの教会を受け入れる態度や信仰に加え、彼とのたびたびの話し合いで、私は教会との間にあった壁をうまく取り去ることができたのです。彼はまた、私の今の自分に対する不安を吹きとばしてくれました。」

G・ボン・バスイズ夫人は、背の高い金髪のおばあさんです。彼女はシーの物理療法士であり、良き友人です。「私は、シーが十代から今の立派な若者になるまで

その成長ぶりを見てきました。シーとは長いつき合いです。病院には、シー以外に私のことを本当にわかってくれる人はいませんでした。私は自分の若い頃のことや、音楽のこと、お金のことや政治のこと、家族のことなど、なんでも彼と話し合います。私がドイツにいる家族を訪ねると、彼らは決まって『シーは元気?』と聞いてくれます。戻ってくれば、またシーは私の好きなレコードをかけてくれるんです。シーは本当にいい子ですよ。頭もいいし、元気だし、ただ体が麻痺しているだけなんです。それだけなんで

す。」

もし皆さんがシーの部屋の前でそっと立ち止まってみれば、コンピュータを前にしたり、イヤホンをつけてカセットに聞き入ったりしている彼の姿を見ることができるでしょう。カセットの中身は、標準聖典（彼はこれを、少なくとも4回は聞いている）や大会説教、物語や学校のレッスン、タバナクル聖歌隊からクラシック、ポピュラーに至るまで広範囲にわたった音楽など様々です。

シーが大人手を借りなくても済むようになったのは、アルバータのリハビリテーション機関が、1978年に彼のためにユニット式の電動コントロール装置を設置してからです。コントロールレバーを下唇で触れるだけで、その装置のすべてのスイッチを点滅できるのです。もちろんその装置で看護婦を呼ぶこともできます。また彼は、その装置に組み込まれた改造コンピュータを使って、10年ぶりに自分の言葉を人々に伝えることができるようになりました。「このお陰で、今まで不可能だったことが可能になりました。」彼はそう語っています。「これを勉強のために使いたいと思います。そして自分の生涯の記録を書きたいと思います。もっと努力すれば、作曲もできるようになると思います。」

シーのその強^{きょう}靱^{じん}さは、まぎれもなく福音から来ています。彼は1977年の11月に長老に聖任され、1982年の6月22日には、アルバータ神殿まで、480キロの旅をして自分のエンダウメントを受けています。何年前かにシーに祝福師の祝福を授けた神殿長のビィ・A・ウッド兄弟は、エンダウメントのセッションの間、ずっと彼に手を貸してあげていました。

シーは、不自由な体を現実として静かに受け止めています。しかしなお生きていくことは決して容易なことではありません。その不便さと限界はさておいても、彼はいろいろな副作用に耐えているのです。たとえば、絶えず人工呼吸に頼っているため、血中ガスのバランスが崩れ、ひどい幻覚症状を起こすのです。こ

れまで何度か呼吸器がはずれ、瀕死の状態になったこともあります。また心臓発作やたび重なる肺炎、腎臓結石、胃潰瘍、卒中にも見舞われました。それでもなお、彼の天父への信仰は揺らぐことがないのです。ユーモアのセンスも同じです。

いつも笑顔を絶やさないシーは、たちの悪いいたずらが大好きなのです。ある日、いつものとおり、一日一回の面会のために母親が病院に出かけたときのことで、彼女はそこで大変なショックを受けました。ふたりの病院の事務員が真剣な面持ちでシーの部屋の近くに座っているのです。部屋のドアは閉まっていた。彼女がドアを開けて入って行くと、中は暗くなっていました。

そしてシーには白いシーツがかぶせてあったのです。アニタの心臓は一瞬止まりそうになりました。彼女がベッドの所に行ってシーツをはがしてみると、その下ではシーが笑っていたのです。そこへふたりの事務員が入って来て、笑いの渦となりました。

シーは家族全員にとって大きな励みとなっています。彼の一番下の妹バービーはこう言っています。「事故が起きたとき、私はまだ5歳でした。ですからシーのこういう状態は、私にとって自然なんです。重荷でも何でもありません。もし彼が自分から騒ぎ立てていたら、私もまた家族もそう思ったかもしれませんが、シーはそういう人じゃありません。ですから少しも負担に思ったことはありません。ただ彼をもう少し楽にしたいと思うことはよくあります。でもその必要はないのかもしれませんが、今までも大勢の人々の生活に祝福を与えているんですから。いつかまた、ぜひ元気な体に戻ってほしいと思います。シーは本当にすばらしい人です。」

シーの父親フランク・ピーターソンはこう話しています。「彼が動けなくなったことは、確かに残念なことです。でもそれ以外は何でもできるんです。私は彼を誇りに思っていますよ。」

シーは強い証を持っていて、それをと

きどき私たちと分かち合ってくれます。母親が昏を読みとり、呼吸器の付属物にリズムカルな音を立てて伝わってくる彼の感情をバックに伝えてくれるのです。

「この地上での生活の主な目的のひとつは、試されること、すなわち天父のみもとに帰るにふさわしいことを証明することです。ですから私たちに与えられる試練は生きていくうえで欠かせない大切なものです。だれもが何らかの方法で試されるのです。ここで大切なのは、それらの試練をどう受け止め、そこからどう成長していくかということです。試練は障害物にもなれば、足がかりにもなるのです。」

私は真実の生ける教会の会員であることに、また神権が与えられていることに感謝しています。私を愛し、支えてくれる家族やいろいろな助けをしてくださるほかの大勢の人々にも感謝しています。私は、天父が生きておられ、祈りを聞き、答えてくださることを知っています。また、救い主イエス・キリストが私たちのために払ってくださった犠牲に感謝しています。私の身に起こった事故は、天父が私のために用意してくださった計画の中で、特別な目的があったと確信しています。

私に与えられた試練は幸いにも目に見えるはっきりしたものでした。ですから多くの人々からたくさんの励ましや援助を受けることができたのです。皆さんの抱える試練も私と同じくらい大変なもので、ただはっきりと外に表われていないだけかもしれません。皆さんもそれらを受け入れ、耐える力を得てください。そして、ぜひそこから成長していったほしいと思います。」

実にシー・ピーターソンらしい考え方です。動きの取れない不自由な体という牢獄に捕らわれて、内向的になる口実が山ほどあるにもかかわらず、彼の心は祈りと奉仕を通して人々に向けられているのです。たとえ寝たきりであっても、彼は巨人と呼ぶにふさわしい人です。シー・ピーターソンは、模範的な末日聖徒であり、しかもユニークな人物なのです。

質疑応答

●本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。



私は旧約聖書の中の「目には目を、歯には歯を」という戒めが理解できません。なぜ主はイスラエルの子らに、そのような復讐心に満ちた律法を与えたのでしょうか。



解答者

エアメル・J・モートン
(レックスバーグ・アイダホ
西ステーキ部祝福師)

まず興味深いことは、この句は復讐や報復を承認するものではないということです。旧約聖書の中で主が言われたこの句は、「^お恩には恩、恨みには恨み」という意味の比喻なのです。その意味は、次のパウロの精選された言葉に集約されています。「人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。」(ガラテヤ6：7)

旧約聖書の時代には、「目には目を」という概念は、裁判官が正しい判決を下すために与えられた原則であり、訴える者がみずから処罰を下すことを禁じたのです。アルマがその息子コリアントンに説明したように、基本的原則は回復、すなわち悪を悪に、肉欲を肉欲に……善を善に、義を義に……元通りに復すこと(アルマ41：13)です。あるいは、救い主が山上の垂訓の中で言われたように、「あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられる」(マタイ7：2)ということなのです。

最後の審判では、目には目が、歯には歯が、慈悲には慈悲が、親切には親切が、そして重大なことに、悪は今後も悪の生活へと回復されるのです。

救い主が山上の垂訓を語られたとき、主は「目には目を、歯には歯を」という言葉を引用したあとにこう付け加えられました。「しかし、わたしはあなたがたに言う。悪人に手向かうな。もし、だれか

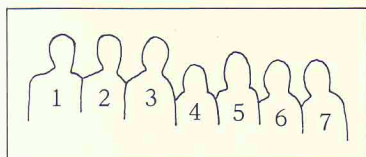
があなたの右の^{ほお}頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい。」(マタイ5：38-39) 主はシナイ山でモーセに与えた神聖な正義の原則を取り消したのではありません。むしろ、聖典の真意を誤って理解していた当時の律法学者やパリサイ人の教えを公然と非難したのです。彼らは、裁きを権威ある者の手にゆだねずに、自分が受けた無礼や侮辱に対する個人的な仕返しのみとして、「目には目を」の原則を自己流に解釈していたからです。

イスラエルの子らには、モーセの律法の一部として特にこのような戒めが与えられていました。「あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みをいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない。」(レビ19：18) このように、彼らは仕返しをするだけでなく、復讐に通じる恨みをいだくことさえも禁じられていました。それどころか、彼らの義務は愛することであり、復讐は主に任せなければなりませんでした。(申命32：35；詩篇94：1 参照)

このように、救い主が山上の垂訓の中で人々に仕返しをしてはならないと教えたとき、主はただモーセを通して与えられた原則を回復し、その原則からはずれていた世の教えを取り除こうとされたのです。

各地のたより

12月に召された JMTC 第79期生 7名の名簿



S: ステーキ部, W: ワード部
B: 支部, M: 伝道部



〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉	〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 風 晴 豊 彦	名古屋S/豊橋W	福岡伝道部	5. 荒 木 敬 子	福岡M/八代B	岡山伝道部
2. 井 幡 康 次	東京南S/渋谷W	名古屋伝道部	6. 宮 城 圭 子	大阪北S/花屋敷W	仙台伝道部
3. 福 原 明	名古屋S/豊橋W	福岡伝道部	7. 種 市 敬 子	仙台M/八戸B	東京北伝道部
4. 谷 川 亜 紀	福岡M/大分B	神戸伝道部			

|編集室から

▶「聖徒の道」の原稿を常時募集しています。各地のたよりには北は稚内から南は沖縄までの幅広い話題を採りあげたく思いますので、広報ディレクターあるいは各種催し物を担当する高等評議員/地方部評議員の方はレポーターを手配して下さるようお願いします。

▶5月号掲載分の締切は3月10日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)を記入してください。

▶あて先: 〒106東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264



●おわび●2月号で表紙説明「新しく出版された讃美歌集(英文)の紹介」が抜けていました。おわびします。

|渋谷ブックセンターから

「あなたからあなたの先祖へ」 (増補改訂版) A4変 118頁 600円

全面的に改訂が加えられ、系図を探索し、「家族の記録」を系図サービスセンターに提出するに必要な段階が詳しく例示されている。さらにこれまで別途に出版されていた「記録提出の手引き」が巻末に付加された。正しい記録を提出するための必携の書。

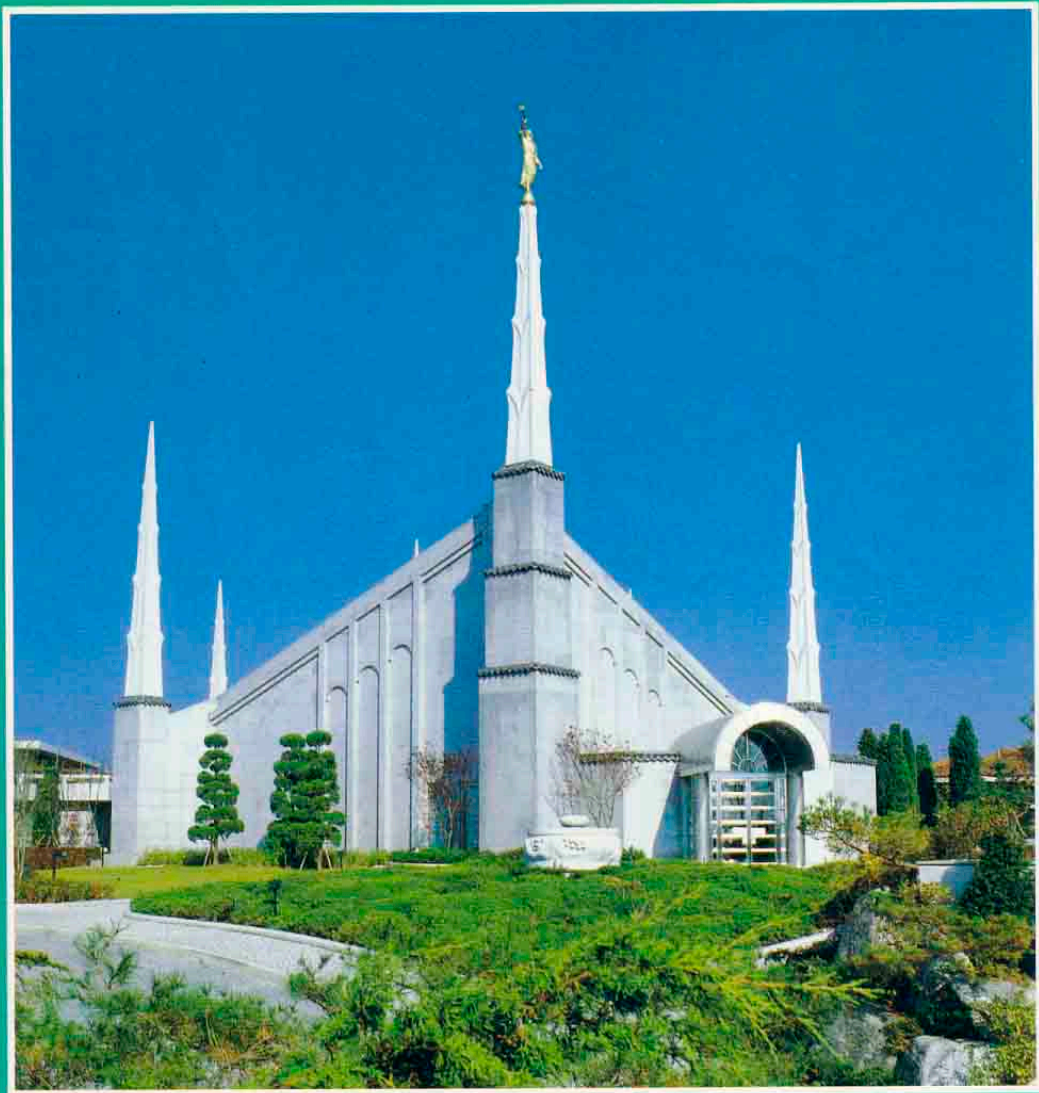
モルモン経の2冊目は ソフトカバーを

昨年9月末に出版されたソフトカバーのモルモン経は、ハードカバーと同じサイズであるが、軽くて開きやすく、電車やバスの中でも片手で読める。なお、定価はハードカバーと同じ450円。



渋谷ブックセンターの営業時間は下記のとおりです。

- 火曜日～金曜日(10:00am～6:30pm) ●土曜日、祭日(10:00am～4:30pm)
 - 日・月曜日はお休み。なお、祭日が月曜日に重なる場合は閉店させていただきます。
- 皆様のご来店をお待ちしています。



塔の壁面への文字入れを待つばかりのソウル神殿